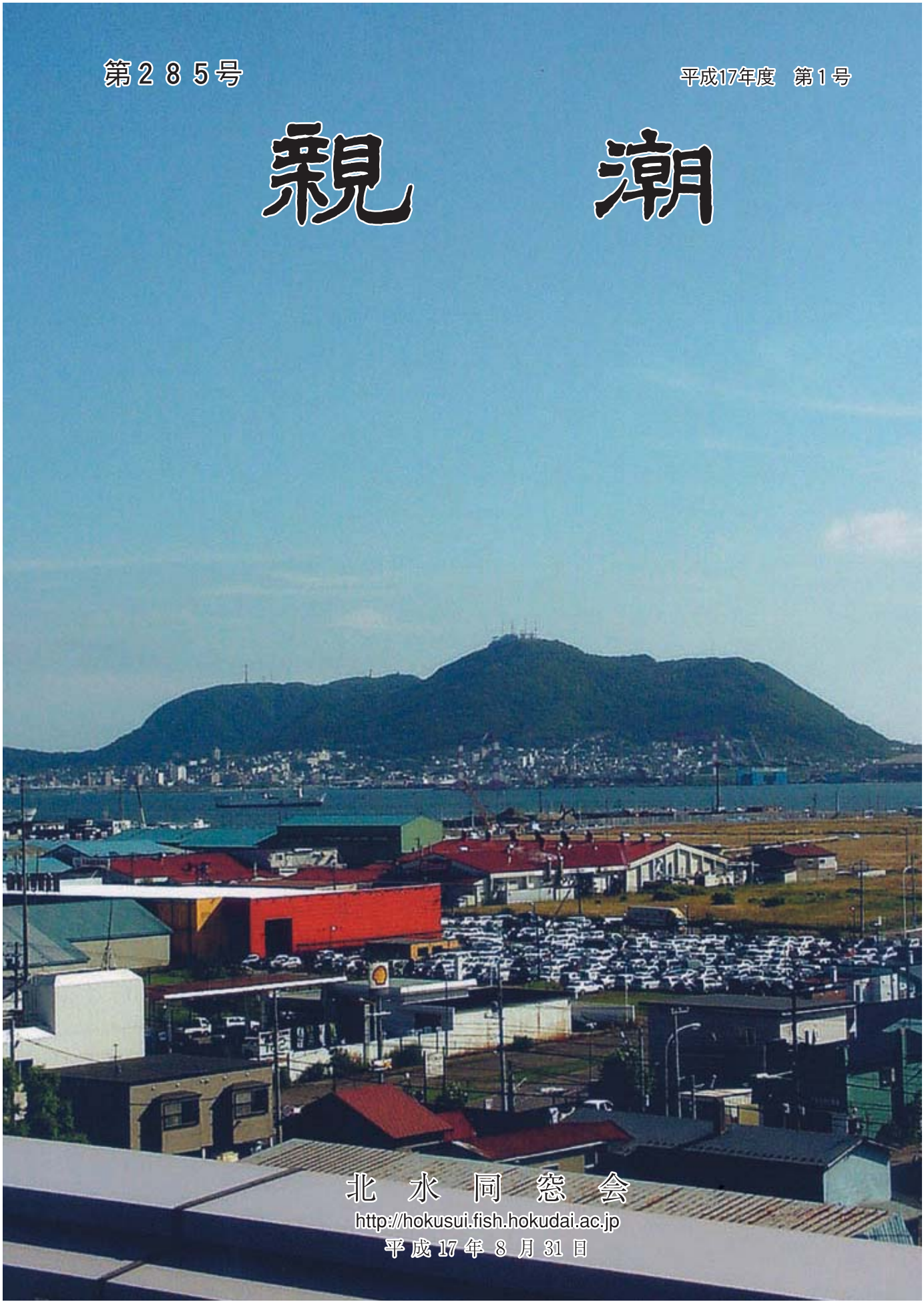
第２８５号

平成17年度　第１号

親　潮



北　水　同　窓　会

http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp

平成17年8月31日

食文化の急速な国際化に伴い
水産総合商社を目指す道水

株式会社 道水

代表取締役会長　髙野洋藏（24年製造科卒業）
代表取締役社長　髙野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本社	函館市豊川町27番5号	TEL(代)	0138)22-7136	FAX	0138)22-3777
はこだて工場	大野町字清水川142番24号	TEL	0138)77-2200	FAX	0138)77-1800
韓国支店	大韓民国釜山廣域市中區中央洞四街53-17(第一火災ビル9階)	TEL	82-51-462-2456	FAX	82-51-462-1567
東京営業所	東京都港区芝浦4丁目16番36号(住友芝浦ビル)	TEL(代)	03)3451-0194	FAX	03)3451-1945
札幌営業所	札幌市中央区北12条西20丁目1番26-301号(第2丸果ビル)	TEL	011)640-7822	FAX	011)640-7833
仙台営業所	宮城県仙台市榴岡4丁目5番24号(第一パークビル2F)	TEL	022)791-7017	FAX	022)791-7018
長岡営業所	新潟県長岡市台町1-8-26(グリーンピア台町)	TEL	0258)31-0231	FAX	0258)31-0232
名古屋事務所	愛知県名古屋市港区小碓3丁目126番地(丹羽マンション2棟231号)	TEL	052)389-5775	FAX	052)389-5775
中国大連事務所	中華人民共和国遼寧省大連市中山区祝賀街35号(錦联大厦1710号)	TEL	86-411-8252-7815	FAX	86-411-8252-7912
現地法人	DOHSUI AMERICA, INC. 4209, 21st. West Suite 305 Seattle WA98199-1271 U.S.A.	TEL	1-206-284-8939	FAX	1-206-284-9273

北海道大学水産学部創基100周年記念事業の一環としての「教育研究・学術交流支援基金」の募金開始および創基100周年記念式典の日程

平成19年に迎えます水産学部創基100周年を契機に設立する「教育研究・学術交流支援基金」の募金を開始することになりました。親潮本号の定期総会の報告にありますように創基100周年の記念事業をご承認いただきましたが、その大きな目標である前述の基金設立に向けて同窓各位のご支援をお願い申し上げます。

また、予定しています記念式典の日程は、第87回北水同窓会定期総会も同時に開催したいことから、平成19年5月26日（土）、27日（日）の両日を予定しています。同窓各位におかれましてはこの日程に合わせまして同期会等の集まりを函館で開催されることを企画していただき、創基100周年の記念式典が一層盛大に行われますことを期待しております。

北水同窓会
会　長　横山　清
（北海道大学水産学部創基100周年
記念事業推進後援会　会長）

北海道大学大学院水産科学研究院
研究院長　山内晧平
（北海道大学水産学部創基100周年
記念事業実行委員会　委員長）

第86回（2006年）北水同窓会定期総会
主管　大阪支部に決定

第86回（2006年）北水同窓会定期総会が大阪支部で開催されることが決まりました。下記要領で開催いたします。全国各地より多数の会員の皆様の出席をお待ちしております。

平成17年7月吉日

北水同窓会大阪府支部一同

開催要領

◎開催日　2006年5月20日（土）　受付14：00～15：00

◎会　場　トップラウンジ・31

大阪市北区中之島6-2-27　中之島センタービル31階

電話　06－6445－1977

※中之島センタービル内にビジネスホテルがあり宿泊も可能

ホテルNCB　電話06－6443－2255

◎議　事　15：00～16：10　支部総会・本部総会

◎講　演　16：20～17：20　未定

◎懇親会　17：30～19：30　懇親会費5000円

◎問合せ先　問合せは、郵送またはFAXで　北水同窓会大阪府支部事務局まで

〒530－0001　大阪市北区梅田1丁目2番2-200号

大阪駅前第2ビル2階　北大会館内

FAX・TEL共通　06－6343－3736

※大阪府支部事務局の者が常駐していませんので、郵送・FAXでの問合せを御願い致します

中之島センタービル
トップラウンジ・31

大阪市北区中之島6-2-27



- 地下鉄　阿波座駅⑨番出口より徒歩10分
- 地下鉄　玉川駅より徒歩10分
- Ｊ　Ｒ　野田駅より徒歩10分
- Ｊ　Ｒ　大阪駅より約5㎞
- 地下鉄　淀屋橋駅より約3㎞
- 南　海　難波駅より約6㎞

■ 市バス　JR大阪駅前より㊸又は特53乗車
船津橋駅下車（中之島センタービル前）

親　　潮　（第２８５号）

目　　次

お　願　い

会費納入のお願い
平成17年度版「会員名簿」を発行します
新会員名簿への広告のお願い
同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い
北海道大学水産学部同窓会ホームページのお知らせ

ご　挨　拶

北水同窓会会長就任にあたり……横山　　清（35エ）…1
退職にあたって……中尾　　繁（40ゾ）…2
退職のご挨拶……天下井　清（39エ）…2
定年退職のご挨拶……林　　賢治（39セ）…3
定年退職のご挨拶に代えて……鈴木　　翼（特）……3

本部だより

第85回定期総会報告……4
創基100周年記念事業の準備状況について ……猪上　徳雄（41セ）…12

会員の受賞

梨本勝昭氏（36ギ）平成16年度日本水産学会賞功績賞受賞……山本勝太郎（42ギ）…12
関　伸夫氏（42修化）平成16年度日本水産学会賞功績賞受賞……埜澤　尚範（特）……13
上田　宏氏（50ゾ）平成16年度日本水産学会賞進歩賞受賞……足立　伸次（55ゾ）…14
植松光夫氏（50化）日本地球化学会賞受賞……板橋　　豊（50化）…14

寄　　稿

北水テニス部……清水　茂雅（学生会員）…15

支部・会員だより

平成16年度北水同窓会長崎支部例会報告……大坂　幸男（63ゾ）…16
埼玉県支部総会と懇親会報告……吉川　晴二（41ゾ）…16
小樽支部総会・懇親会の報告……平山　　聡（54ギ）…17
平成17年度北水同窓会長崎支部例会報告……大坂　幸男（63ゾ）…18
八紘会（昭和17年９月高水卒）の集い……添田　　恒（17ヨ）…19
第18回久喜会の開催報告……田寺　伸彦（18ギ）…19
北水マンドリンクラブの集い－札幌と函館で開催……草刈　宗晴（39ゾ）…21

追　　悼

畏友　堀越耕二君（23セ）を悼む……髙橋日出彦（23セ）…22
朋友　近岡成男君（23セ）逝く……松田　勝彦（23セ）…23
川村輝良先生（11ヨ）のご逝去……池田　　勉（43ゾ）…24
会員死亡通知……25

学内ニュース

学位取得者と論文題目……26
会員異動……27
平成16年度進路状況一覧……28
有朋自遠方来不亦楽乎……30
表紙写真説明……30
編集後記……31
投稿規定……31

お　願　い

◆会費納入のお願い◆

北水同窓会の年会費（4,000円）の納入をお願い申し上げます。

本部の運営は、この同窓会費ですべて賄っておりますが、近年不況のためか会費の納入率が低下しております。会員の皆様におかれましては本会の運営維持のため今年度分からでもぜひお納め頂きたくお願い申し上げます。なお、過去の未納分は問いません。

会費納入の際には、本号巻末に綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。また、郵便局にてご自分で振替用紙にご記入される場合には、下記の振替口座番号および加入者名をご記入下さい。併せて郵便自動払込制度をご利用されたい方は、本部に自動払込利用申込書がございますのでご用命ください。すでに郵便自動払込の手続きをされている方は、毎年７月31日に引き落としになりますので通帳の残高の確認をお願い致します。

振替口座番号：０２６２０－５－５８１
加入者名：北水同窓会

なお、会費納入方法のお問い合わせ、住所変更等のご連絡につきましては北海道大学水産学部同窓会（〒041-8611　函館市港町3-1-1、電話＆ＦＡＸ：0138-42-3681、E-mail：hokusui@hotweb.or.jp）で承っております。電話受付時間は午前９時から午後３時までです。

平成17年度版「会員名簿」を発行します

この秋に１年おきに発行しています同窓会会員名簿が発行されます。この名簿は同窓生と同窓生とのネットワーク作りに欠かせないもので、**今年度の会費を納入された会員には無料で配布することになっております。**同窓会本部では印刷部数を把握し、後日部数に過不足のないように配慮したいと考えておりますので、どうぞ会員の皆様におかれましては、**早目に会費4,000円を納入**してくださいますようお願いします。郵便振替用紙は本号末尾に綴じてありますのでご利用下さい。併せて自動払込みもご利用下さい。

なお、**現在会員の勤務先、役職、住所、電話番号、ＦＡＸ番号、E-mailアドレス等の訂正を行っております。**転勤などでの住所変更等ありましたら**９月末日までに**、下記連絡先まで郵便、電話、ＦＡＸ、電子メール（インターネット）等でお知らせ下さい。官庁、会社、団体等会員の多い所ではご面倒でも一括ご通知いただければ幸いです。

住所変更等の連格先
〒041-8611　函館市港町3－1－1
　　北海道大学水産学部北水同窓会
電　話　　0138－42－3681
ＦＡＸ　　0138－42－3681
電子メール　alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp

個人情報保護法について…

「個人情報保護法」が平成17年４月１日から施行されました。つきましては、平成17年度版「会員名簿」からは、会員の皆様の情報（自宅住所、電話番号など）の中で開示したくないものがあれば削除いたしますので、お手数でも北水同窓会事務局宛てお知らせ下さい。学内教員等からの連絡により、平成15年度版に掲載されていない情報が含まれる場合がありますので、この点もご留意願います。なお、「会員名簿」は同窓各位相互の連絡や親睦を目的としており、今後も活用して頂くために同窓の皆様には一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

新会員名簿への広告のお願い

本年11月末に平成17年度版会員名簿が発行されます。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募を歓迎しておりますので、同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位には広告主の開拓にお力添えをお願いいたします。なお、広告料は以下のようになっております。
広告申し込み締切日は９月16日です。

普通頁
１　頁　　３５，０００円
1/2 頁　　２０，０００円
1/3 頁　　１５，０００円

同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は随時受け付けており、広告料は親潮１年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面
１　頁　　８０，０００円
1/2 頁　　４０，０００円

普通頁
１　頁　　６０，０００円
1/2 頁　　３０，０００円
1/3 頁　　２０，０００円

北海道大学水産学部同窓会ホームページのお知らせ



皆さま、北水同窓会にホームページがあるのはご存知ですか？

北水同窓会では、平成15年度からインターネットホームページを開設しています。ホームページへのアクセスには、お手持ちのインターネット接続されているコンピューターから、http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp とご入力ください。

ホームページには、「お知らせ」や「投稿掲示板」、「写真集」、「リンク」などの項目がございます。また、同窓会会員の皆さまに最新の情報を提供できますよう、Topics欄を設けるとともに、「投稿掲示板」を通して同期会や同窓会などの通知や報告を行っております。

ホームページの充実を図るためにも、ホームページ掲示板への投稿文書、写真等を募集しております。同期会の呼びかけ、同窓会の報告、支部会の活動状況など、北水同窓生の交流の場として「投稿掲示板」をご利用ください。依頼文書や写真などは、下記メールアドレスへお送りください。なお、掲示板への掲載可否については本ホームページ管理者において決定させていただきますので、予めご了承ください。公的運用を目的とした掲示板ですので、個人的な宣伝活動、商業目的の宣伝活動、誹謗中傷記事などについては固くお断りいたします。

同窓会本部では、ホームページをより良きものにしていきたいと考えております。ホームページに関するご意見、ご感想などをお寄せください。

皆さま、北水同窓会ホームページを是非ご訪問ください！！

ホームページに関するご意見・ご感想は
alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp
までお願いします。

ー◆　ご　挨　拶　◆ー

北水同窓会会長就任にあたり

北水同窓会会長　横山　　清（35エ）



この度、第85回定期総会の役員改選において北水同窓会々長に就任することになりました。石瀬和正（22ギ）先輩の後任としては年代的にはかなり下がりましたが、精一杯努力するつもりです。皆様のご協力とご支援をお願いする次第です。

さて母校の水産学部は、札幌農学校に水産学科が開設された明治40年（1907）を起源とし、明治、大正、昭和、平成とその時々の試練を経ながら平成19年（2007）をもって創基100周年を迎えます。現在、私は札幌支部を中心に同窓会の仕事にも係わりをもっておりますが、母校の一世紀にわたる伝統に思いを馳せるとき、身のひきしまる思いが致します。

その後母校は、昭和24年（1949）に新制北海道大学水産学部となり、学部・大学院の充実などが行なわれてきましたが、平成12年（2000）に大学院の部局化（教官の所属が大学院となる）を伴う重点化により、大学院水産科学研究科として水産系では唯一の大学院大学となりました。さらに、平成16年（2004）から国立大学法人としてスタートし、平成17年（2005）４月からは、現在の大学院水産科学研究院、大学院水産科学院および水産学部として教育研究体制を整備・充実して現在に至っています。水産学部は、今日に至る約100年の間に、およそ13,000人の優れた人材を輩出し、卒業した同窓生は社会の広範な分野で活躍しておられます。

今、日本の大学は国際競争力の強化（世界レベルの研究）を行なうと同時に社会貢献（成果の社会還元や地域社会での貢献）も求められています。母校も例外ではありません。現在、大学と都市機能を一体化することで街全体にかつてのような活気を呼び戻そうと函館地域の高等教育機関、産業界、公的研究機関が連携して、地域の再生のための努力が行なわれております。捕る漁業基地としての存在から学術研究・観光をも巻き込んだ新たな都市建設を目指していると聞き及んでおります。一例を挙げますと、構造改革特区のひとつ「マリンフロンティア科学技術研究特区」（内閣府）、地域再生計画「函館国際水産・海洋都市構想の推進－水産・海洋に関する学術・研究拠点都市の形成－」（内閣府）、さらに「都市エリア産学官連携促進事業（函館エリア）」（文部科学省）に指定されて、各種の事業は母校が中核となって実際に展開中であり、各方面から注目される存在になりつつあるとのことです。

さらには、平成16年７月、母校が中心となって申請した「21世紀ＣＯＥプログラム（革新的な学術分野）」の『海洋生命統御による食糧生産の革新』が採択され、現在精力的に研究が行われております。この大型プロジェクトに対しては、社会的にも世界レベルの成果の発信と世界水準の研究教育拠点の中心となることが求められています。

これら一連の事業やプロジェクトの成果が形として現われる総仕上げ時期に、100年の歴史を刻むこととなります。

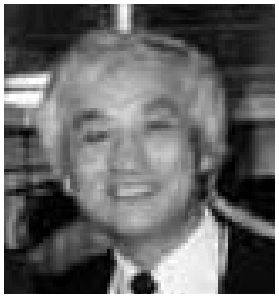
このような現在の函館キャンパスの状況から、函館地域も新たな活力を得て再び輝きをますことが期待され、石瀬前会長が３年前、就任のご挨拶で危惧されていました「……遠洋漁業の基地としての函館は無くなり、漁業の町の存在価値も危うくなって来つゝある今、……」という下りの心配は、杞憂に終わるのではないかと思っています。そのためには、函館キャンパスにある母校が、創基100周年を機に一層元気が出るように同窓の皆さんのご協力を得て北水同窓会としても最大限の応援をしたいものです。

今回の総会では、創基100周年記念事業推進後援会の設立が承認されました。平成19年の創基100周年に向けて、会長としても努力をしていく所存でありますが、重ねて同窓各位からのご協力

とご支援をお願いする次第です。最後に、同窓各位のご健勝とご活躍を祈念して会長就任のご挨拶と致します。

退職にあたって

中尾　繁（40ゾ）



この３月、40年近く奉職した本学部を無事定年退職することができました。この間同窓各位から賜ったご高配に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

北水同窓会が北海道大学連合同窓会のひとつとして歩むことになったのは、北海道大学が国立大学から大学法人として教育研究や運営の体制を一新したつい先年ですが、北水同窓会の歴史は平成19年に100周年を迎える学部とともに長きにわたっているのはみなさんご承知の通りです。その間の輝やかしい歴史は北海道大学創基125周年記念の水産学部小史に述べられており、そのひとときに参加できたことを心から幸せに思います。

水産学部に在職していることで、北水同窓会の運営にいろいろ携わる機会を得させて頂きました。そんな中で学部75周年事業の際に、二人の大先輩を学内・市内を案内したことが思い出されます。的矢湾養蛎研究所の故佐藤忠勇氏（明44ヨ）と北大名誉教授の故田村　正氏（大15ヨ）のお二人です。大長老二人を記念事業の合間に函館山と大沼公園に案内しましたが、緊張でハンドルを握る手が震えたのを思い出します。車中で話かけられ、何をどう答えたのか全く思い出せませんが、二人の大先輩から暖かい心遣いをいただいたこと、水産学や学部へのお考えに深い感銘を受けたことを強く記憶しております。北水同窓会がとりもってくれた縁に深く感謝しました。

同窓会とは何だ、とはこれまでもまた、これからもいくどとなく議論されるところでしょうが、なかなか確固たる答えを見出すのは難づかしいかも知れません。私自身は北水同窓会が二人の大先輩と接する縁をつくってくれたことが、その答えのひとつである気がしております。

２年後、100周年を迎える水産学部とともに北水同窓会が益々発展していくことを切に願って定年退職のあいさつと致します。

ありがとうございました。

退職のご挨拶

天下井　清（39エ）



昭和42年６月、勤めていた神奈川県水産試験場から水産学部の漁船運用学講座の助手として移ってきて以来37年余があっというまに過ぎ、無事本年３月で退職いたしました。無我夢中で諸先生方の背中を追って過ごした毎日でしたが、終わってみれば何と多くの皆さんに支えられてきたものだと思いを新たに感謝している次第です。

研究面では漁船の安全性に関する問題について何が大事なのか、取り組まれていない問題はないだろうかと色々考えた結果として操業中の漁船の安全性について、特に漁船が大規模な漁具を用いて操業している時に風や波以外に漁具からの外力を受けて漁船の運動はどうなっているのか、また漁具は漁船の運動の影響を受けてどうなのだろうかという問題に行き着き、殊に本道周辺海域で着業船が多いトロール漁船やかけまわし漁船について研究しました。この結果はたびたび起こる底引き漁船の転覆海難事故の原因究明に役立ち、良かったと思っています。その後本道周辺海域における漁船海難の多発と海中転落による漁船員の死亡・行方不明が社会問題となり、昭和49年に北海

道漁船海難防止センターが設立されたことから、センターの調査研究事業に協力するようになりました。そのお陰で小型漁船の安全確保の問題はすなわち漁業の安全確保そのものなのだと教えられ、私のライフワークとなっています。

同窓会の皆様には練習船に乗船して寄港した際に厚い歓迎をいただきました。同窓という絆の重さ、有難さを実感しました。退職に際し遅ればせながら感謝申し上げる次第です。今後はないがしろにしてきた家庭サービスと一市民としての社会貢献ができればよいなと考えています。最後になりましたが、同窓の皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして定年退職のご挨拶といたします。

定年退職のご挨拶

林　　賢治（39セ）



本年３月31日付けをもちまして定年退職いたしました。昭和42年４月以来、38年間の長きにわたって北大水産学部でお世話になった次第です。当時の水産化学科魚油化学講座の助手として奉職し、その後、水産化学科実習工場（後に、海洋生物資源化学実習工場）に移籍し、学生の教育としての水産化学実習と水産資源利用に係る講義を担当しました。この間、常に良き師、先輩、同僚、後輩、そして学生達に恵まれ、皆様方の多大なご協力とご援助によりまして充実したなかで水産化学の教育と研究を続けることが出来ました。

私の専門は魚油化学で、20世紀初頭にサメ肝油からスクアレンやグリセリルエーテルの特異な脂質が日本の研究者によって初めて発見された論文に触発され、海産生物におけるそれら脂質の役割に強く興味を惹かれました。その後、研究を進めるなかで多種類の海産生物の脂質の特性を明らかにして、特異な脂質成分を含有するこれまで未報告の多くの種を発見することが出来ました。また、それらの脂質成分を食品や化粧品・医薬品などの素材として利用するために、新たな分離・精製技術の研究にも取組み、一貫して魚油化学研究の一端に携わることが出来ました。これもひとえに同窓の皆様方からいただいたご指導とご鞭撻のおかげと深く感謝しております。

近年の社会の様々な分野における激しい変遷のなか、北大の水産科学の教育・研究は、いま新たな学部・大学院の組織・体制のもとでさらなる発展を目指しておりますが、着実な教育と学術研究の成果によって、今後の水産学への貢献と水産業への社会還元がより期待されます。

最後になりましたが、母校の教職員の皆様、並びに同窓各位の皆様から賜りましたご厚情に対し、心から厚くお礼申し上げるとともに、北大と北水同窓会の益々のご発展を祈念して退職のご挨拶といたします。

定年退職のご挨拶に代えて

鈴木　　翼（特）



昭和35年に入学してから、気がつけば45年もの間北大にお世話になりました。理類から工学部に新設された合成化学工学科へ進学し、そのまま大学院の修士課程、博士課程まで進みました。有機化学系、物理化学系、化学工学系、併せて６講座から成るこの学科で非常に幅広い教育を受け、本当に楽しく充実した学生生活を過ごしました。博士課程を修了し、昭和45年１月から縁あって水産学部の水産化学科に講師として赴任しましたが、この水産化学科も水産に関連した様々な化学分野を総合した学科で、自由な雰囲気に溢れた、とても良い学科でした。赴任して

直ちにプロセス制御に関連した講義を受け持ちましたが、今になって思うと、若さ故の気負いもあって、学生を一方的に教え込もうとしていたような気がします。学生を成長させるためには教官も学生によって成長させてもらわなければならないという当たり前のことが実感として理解できるようになるにはだいぶ時間がかかりました。昭和57年に水産化学科化学工学講座の教授になり、以来、水産化学科で13年、海洋生物資源化学科で５年、水産科学研究科生命資源科学専攻で５年、併せて23年間で168名の卒業生を研究室から送り出したことになります。

20世紀後半はコンピュータの時代でもありました。学生の頃はじめてコンピュータに触れましたが、その当時と比べると現在はまさに隔世の感がします。北大がパソコンを中心にしたネットワーク（ＨＩＮＥＳ）を始めたのが1990年代ですが、その頃から研究室にＬＡＮを敷いてデータや知識の共有化を図れば、研究効率が格段にアップすると考えていた私は、学生や先生たちの協力を得て、研究室のすべてに自分たちでケーブルを張り、２台のサーバを中心とした手作りのＬＡＮを稼働させたのが1996年頃で、これ以前と以降では研究と教育の環境が格段に変化したような気がします。同時にアプリケーションも高性能になり、ほとんど自分でプログラムを作る必要はなくなりました。昔ならまず多数の実験データを蓄積してから、それを理論的に説明するモデルを構築するのが一般的でしたが、この環境になって実験によるモデルの検証が非常に容易になりました。私の研究は主に固体粒子の表面を利用した分離操作に関係したものが中心ですが、最近の研究のほとんどはコンピュータとそのネットワークによる恩恵がなかったら、生まれなかったと言っても過言ではありません、その意味でいい時代を水産学部で過ごさせていただいたと感謝しております。

最近印象に残った言葉として、1963年のカンヌ映画祭グランプリ獲得作で、最近再上映されて注目されているルキノ・ヴィスコンティ監督の「山猫」のラストシーンでバート・ランカスター扮するシシリー島の老貴族が口にしたセリフがあります。「変わらずに生き残るためには、自ら変わらなければならない」というものですが、流れゆく時代の中の個人のポジションについて考えさせられます。時間とともに変化し続ける座標系の中では、個人に不動のポジションなど存在しない、時代という座標系と個人の相対的変化だけが意味をもつのだと、私は勝手に解釈しています。時代より少しだけ速く変化しなければ、時代をリードすることはできないのでしょう。情報伝達の高速化によって世界はますます均一化し、いち早く大きな集団を組織できたものが時代をリードし、大きな利益を手に入れることができる時代です。そのためには創造力と素早く広い範囲に情報伝達できるコミュニケーション能力が不可欠ですが、北大そして水産学部には優れた人材と伝統という財産があります。最後に、ともにこの時代を生きた学生諸君、先生方、事務職員の方々に深く感謝し、北大水産学部が今後とも時代をリードする優れた人材を社会に送り出す機関であり続けることを願って、退職のご挨拶に代えさせて頂きます。

ー◆ 本部だより ◆ー

第85回定期総会報告

北水同窓会第85回定期総会は、平成17年５月14日（土）に名古屋市のウェスティンナゴヤキャッスルを会場として、83名におよぶ会員の出席を得て午後２時より盛大に開催された。

藤井洋治氏（42ギ）による総合司会のもと、志賀直信副幹事長（44ゾ）の開会挨拶後、議長に三栗茂氏（39ゾ）を選出し議事にはいった。

先ず、議案第１号平成16年度事業経過報告および会計決算報告について、猪上徳雄幹事長（41セ）から一般経過報告の後、本部幹事による各議案の説明があり、これらが一括して承認された。

次に、議案第２号ついて、平成17年度役員改選案と次回の第86回定期総会開催地を大阪とする提

案、北海道大学水産学部創基100周年記念事業推進後援会についての提案がなされ、これらが承認された。これにより次回開催地は正式に大阪に決定し、また期日も平成18年５月20日(土)とすることが認められた。続いて、平成17年度予算案について各幹事より説明・提案があり、承認された。

これら議案の終了後、横山清新会長（35エ）の挨拶があり、続いて山内晧平名誉会長（44ゾ）から水産学部の現状と将来の方向性等についての講演があった。

最後に志賀副幹事長の閉会の辞をもって総会は無事に終了した。

午後４時半頃より開催された懇親会は、山田勉氏（48ギ）の司会進行により、愛知県支部長深谷勲氏（36セ）の挨拶で開始された。続いて、愛知支部からの参加者で最長老にあたる野畑順二氏（24セ）が乾杯の音頭をとられた。



愛知県支部長深谷勲氏による懇親会開会の挨拶



愛知支部からの参加で最長老にあたる野畑順二氏による乾杯の音頭

会は全体が会員同士の歓談で和やかにも大きく盛り上がり、楽しくかけがえのないひとときが流れた。途中では、卒業年度ごとに参加者がステージに集まっての挨拶が行われ、間に井上英樹氏（平２ギ）の前口上による水産放浪歌の全員斉唱をはさんで、会はさらに盛り上がった。最後に、横山新会長を中心に都ぞ弥生、逍遙歌を全員で肩を組み大きな輪になって斉唱し、そして藤井洋治



横山清会長を中心に全員で都ぞ弥生と逍遙歌を斉唱



肩を組み大きな輪をつくって都ぞ弥生と逍遙歌を斉唱

氏（42ギ）の音頭による一本締めが行われ、盛会のうちに終宴となった。

会員への総会案内や会場の準備に多大なご尽力をいただいた愛知支部長の深谷勲氏（36セ）、同支部幹事長の三栗茂氏（39セ）、同支部副幹事長の藤井洋治氏（42ギ）をはじめとする支部幹事の方々、総会に参加された会員の皆様方に心より感謝申し上げ、総会の報告といたします。

文責　東藤　孝（庶務部幹事）

出席者　８３名（卒業年順　敬称略）

野畑　順二（24セ）
原田　和民（24ゾ）
工藤　　進（25教セ）
野口　　信（29ギ）
佐々木宏司（29セ）
篠田　　孝（30セ）
中根　重勝（30エ）
柴田　勝明（31エ）
竹長　公彦（34エ）
沖　　忠良（34ゾ）
横山　　清（35エ）
横山　久子（35ゾ）
斎藤　　覺（36ギ）
池田　清哉（36エ）
朝倉　健治（36セ）
石川　光男（36セ）
市川　浩治（36セ）
大野　正浩（36セ）
古東　宣勝（36セ）
佐々木君男（36セ）
鈴木　賢一（36セ）
角田　靖雄（36セ）
西川　雄造（36セ）
新田　　実（36セ）
藤井　　明（36セ）
深谷　　勲（36セ）
本多　純夫（36セ）
平野　勇夫（36ゾ）
町田　健治（36ゾ）
山田　尚良（36ゾ）
内田　奎司（37ギ）
加藤　秀康（37セ）
山成　克二（37セ）
荒井　城一（37ゾ）
小野里　担（37ゾ）
野末　秀俊（38セ）
今野　英一（39ギ）
三栗　　茂（39ギ）
千葉　茂春（39セ）
小林　正昌（39ゾ）
石黒　祥之（40セ）
近藤　忠実（40ギ）
中山　嘉文（40ギ）
原田　洋一（40ギ）
信太　洪一（40エ）
小林　英則（40ゾ）
猪上　徳雄（41セ）
兼崎　英勝（41セ）
下村　政雄（41ゾ）
藤井　洋治（42ギ）
水野　秀二（42エ）
奥原　大典（42セ）
田中　庸央（42ゾ）
水戸　孝夫（43ギ）
山口　　晧（44エ）
川村　悦春（44食）
三ツ野勝廣（44食）
志賀　直信（44ゾ）
山内　晧平（44ゾ）
高倉　謙造（45食）
堀場　宏昌（47ギ）
大串　松彦（47化）
岡　　克則（48ギ）
山田　　勉（48ギ）
磯野　保雄（49ギ）
長谷川健二（49ギ）
谷村　　篤（50ゾ）
大原　正志（51ギ）
桜井　　清（54ギ）
神保　重孝（54ギ）
吉岡　正弘（55化）
山田　　智（58ゾ）
大河原卓也（61ギ）
伊藤　　浩（62化）
安藤　靖浩（63化）
井上　英樹（平２ギ）
細川　雅史（平２食）
東藤　　孝（平２ゾ）
大浦　真吾（平３ギ）
山口　　篤（平６ゾ）
竹内　泰介（平８ゾ）
菅木　清治（平11ギ）
吉田　秀美（同窓会本部事務）

北水同窓会定期総会式次第

１．開会の辞
副幹事長　志賀　直信（昭44ゾ）
２．議長選出
３．議案第１号
平成16年度事業経過報告および会計決算報告
（１）一般経過報告
幹事長　猪上　徳雄（昭41セ）
（２）庶務部報告（資料１）
庶務部　東藤　　孝（平２ゾ）
（３）編集部報告（資料２）
編集部　安藤　靖浩（昭63化）
（４）組織部報告（資料３）
組織部　山口　　篤（平６ゾ）
（５）会計部報告（資料４）
会計部　細川　雅史（平２食）
（６）会計監査報告
庶務部　東藤　　孝（平２ゾ）
４．議案第２号
（１）平成17年度役員改選案（資料５）
庶務部　東藤　　孝（平２ゾ）
（２）第86回（平成17年度）定期総会開催地
（大阪）5/20（土）について
幹事長　猪上　徳雄（昭41セ）
（３）北海道大学水産学部創基100周年
記念事業推進後援会について
幹事長　猪上　徳雄（昭41セ）
（４）平成17年度予算案
１．会計部予算案（資料６）
会計部　細川　雅史（平２食）
２．編集部予算案（資料７）
編集部　安藤　靖浩（昭63化）
３．組織部予算案（資料８）
組織部　山口　　篤（平６ゾ）
５．その他

6．閉会の辞

副幹事長　志賀　直信（昭44ゾ）

庶務部報告（資料１）

1）新入会員数

水産海洋科学科	44名
海洋生産システム学科	35名
海洋生物生産科学科	56名
海洋生物資源化学科	62名
大学院（他大学、他学部出身者）	20名
合　計	217名

2）本年度物故者　（３月15日現在）

正 会 員	64名
特別会員	２名
合　計	66名

3）会員現在数　（３月15日現在）

正会員総数	12,644名
（内準会員数）	（22名）
物故正・準会員数	2,264名
正会員現在数	10,380名
特別会員数	62名
名誉会員数	４名
賛助会員数	５名
会員数合計	10,451名

4）新入会員を含めた正会員現在数（３月15日現在）

合　計	10,668名

編集部報告（親潮発行）（資料２）

号 数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
283	H16. 8.30	45	8,200	819,000	
284	H17. 2.28	24	8,200	682,500	＊1
合 計		69	16,400	1,501,500	

注）印刷費には振替用紙代、消費税を含む。
＊1：総会出席者確認用私製葉書綴じ込み

物故者名簿（３月15日現在）

氏　名	期	氏　名	期
平　岩　　節	（特）	澤　田　芳　治	（S24セ）
福　岡　次　郎	（特）	福　原　一　男	（S24セ）
石　梶　義　孝	（S７ヨ）	佐　藤　昭　夫	（S25エ）
兼　子　　誠	（S７セ）	松　田　基　孝	（S25エ）
蒲　原　八　郎	（S８ヨ）	山　本　晴　一	（S25エ）
中　森　正　元	（S８ギ）	遠　野　孝　雄	（S25教セ）
小　串　次　郎	（S９ヨ）	吉　住　喜　好	（S25ゾ）
富　田　　弘	（S10ヨ）	苅　部　準一郎	（S26ギ）
小　林　五十雄	（S10セ）	伊　藤　了　一	（S26教セ）
福　井　源　次	（S14ヨ）	小　林　文次郎	（S26教セ）
一　柳　達　正	（S14セ）	境　　一　郎	（S26教セ）
木　村　　誠	（S15ギ）	伊　藤　国　夫	（S26ゾ）
津　幡　文　隆	（S16ヨ）	藤　岡　　隆	（S28エ）
植　田　総　一	（S16ギ）	才　野　雅　男	（S28セ）
薗　田　赴　夫	（S16ギ）	庄　子　富　雄	（S29エ）
高　木　光　造	（S16セ）	村　田　耕　一	（S29エ）
玉　本　一　郎	（S16セ）	手　塚　一　世	（S29セ）
三　角　俊　登	（S16セ）	岩　田　　功	（S30エ）
町　田　　弘	（S17ギ）	立　石　有　恒	（S30エ）
高　山　郁　郎	（S17セ）	横　山　正　市	（S30エ）
吉　田　　徹	（S17セ）	藤　野　政　彦	（S30セ）
斎　藤　　要	（S18セ）	吉　田　福　衛	（S31セ）
山　本　正　夫	（S18セ）	朝　岡　辰　夫	（S32エ）
石　田　巳之助	（S19セ）	山　村　寛　治	（S34エ）
片　山　五　郎	（S19セ）	貴田岡　　修	（S37セ）
西　山　駿　司	（S19ゾ）	池　田　信　敏	（S38ギ）
川　口　榮　一	（S20セ）	稲　葉　栄　生	（S38ギ）
冨　成　省　治	（S22ゾ）	西　浦　　洋	（S40ギ）
大　坂　秀　也	（S23セ）	三　上　俊　一	（S41セ）
堀　越　耕　二	（S23セ）	谷　本　登　司	（S47ギ）
佐　藤　春　夫	（S23ゾ）	阿　部　　徹	（S52食）
滝　井　和　男	（S23ゾ）	中　田　　淳	（S53ゾ）
井　戸　二　郎	（S24セ）	清　水　秀　樹	（S55ゾ）

組織部報告（名簿会計）（資料３）

	項　目	予　算　額	決　算　額	摘　要
収入	前年度繰越金	688,949	688,949	
	一般会計より繰入	700,000	700,000	名簿積立金
	広　告　料	30,000	15,000	未収１件
	貯　金　利　子		57	
	合　計	1,418,949	1,404,006	
支出	予　備　費	50,000	0	
	次年度繰越金	1,368,949	1,404,006	
	合　計	1,418,949	1,404,006	

（繰越金の内訳　郵便貯金 1,404,006）

会計部報告（資料４）

１）平成16年度一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,613,971	3,613,971	
	会費	10,000,000	8,418,000	2,115名
	親潮広告料	300,000	330,000	
	雑収入	100,000	154,514	
	合計	14,013,971	12,516,485	
支出	親潮印刷費	1,600,000	1,501,500	
	通信・運搬費	1,600,000	1,599,526	親潮発送費（２回分）含む
	総会旅費	800,000	800,000	
	備品費	50,000	45,295	
	消耗品	300,000	234,731	
	会議費	50,000	45,000	
	振替手数料	150,000	103,845	
	事務嘱託費	2,060,000	2,055,104	
	組織強化費	1,000,000	689,005	
	傭人費	150,000	120,000	
	雑費	30,000	21,720	
	名簿会計へ	700,000	700,000	
	ＯＡ機器整備費(積立)	100,000	100,000	
	ＨＰ維持費	120,000	120,000	
	100周年準備金(3年目)	500,000	500,000	
	予備費	4,803,971	307,554	
	次年度繰越金		3,573,205	
	合計	14,013,971	12,516,485	

収支差引額（平成17年度に繰越）3,573,205円
（繰越金の内訳：郵便貯金 84,772円、銀行預金 3,399,743円、現金 88,690円）

２）平成16年度ＯＡ機器整備費（積立）決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	154,265	154,265	
	一般会計より	100,000	100,000	
	合計	254,265	254,265	
支出	ＯＡ機器整備	254,265	254,265	本体、ﾓﾆﾀｰ、ﾊﾞｯﾃﾘｰ
	次年度繰越金		0	OAｿﾌﾄ
	合計	254,265	254,265	

３）100周年準備金決算報告（平成19年まで６年間積立）

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,000,000	1,000,000	
	一般会計より	500,000	500,000	積立３年目
	合計	1,500,000	1,500,000	
支出	次年度繰越金	1,500,000	1,500,000	
	合計	1,500,000	1,500,000	

（繰越金の内訳　郵便定額貯金 1,500,000円）

４）平成16年度特別会計決算報告

	項目	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	20,191,459	
	定期預金(ﾏﾘﾝﾊﾞﾝｸ)利子	2,394	
	郵便普通貯金利子	4	
	合計	20,193,857	
支出	次年度繰越金	20,193,857	
	合計	20,193,857	

平成16年度特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金１口	9,301,000	
郵便普通貯金	89,335	
銀行定期預金(ﾏﾘﾝﾊﾞﾝｸ)１口	10,803,522	
合計	20,193,857	

会計監査報告

北水同窓会の平成16年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

１．監査対象期間　　自　平成16年３月16日
　　至　平成17年３月15日
２．出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
３．現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以　上

平成17年３月24日　監事　小　祝　良　介 ㊞
　　監事　林　　賢　治 ㊞

平成17年度役員改選案（資料５）

［○は新任］

会　　長

○横　山　　清（昭35エ）

名誉会長

山　内　晧　平（〃44ゾ）

副 会 長

木　村　喬　久（〃23教セ）
前　田　辰　昭（〃26エ）
○鈴　木　賢　一（〃36セ）
○吉　野　生　壮（〃37ゾ）

相 談 役

遠　藤　信　二（〃13ヨ）
宮　原　九　一（〃14ギ）
中　部　長次郎（〃17ギ）
○石　瀬　和　正（〃22エ）

代表理事

○田　島　研　一（〃43食）

学内理事

米田国三郎（昭40エ）　猪上　徳雄（昭41セ）
関　　伸夫（〃42修化）　清水　幹博（〃42ゾ）
仲谷　一宏（〃43ゾ）　池田　　勉（〃43ゾ）
廣吉　勝治（〃44ギ）　高橋　豊美（〃44エ）
志賀　直信（〃44ゾ）　三浦　汀介（〃45ギ）
簗田　　満（〃45化）　後藤　晃（〃45ゾ）
阿部　周一（〃46ゾ）　原　　彰彦（〃46ゾ）
目黒　敏美（〃47ギ）　吉水　　守（〃47食）
○帰山　雅秀（〃48ゾ）　桜井　泰憲（〃48ゾ）
今野久仁彦（〃49食）　山口　秀一（〃49ギ）
高橋是太郎（〃50食）　板橋　　豊（〃50化）
齊藤　誠一（〃50ギ）　門谷　　茂（〃50化）
飯田　浩二（〃51ギ）　平石　智徳（〃51ギ）
荒井　克俊（〃51ゾ）　矢部　　衛（〃51ゾ）
中谷　敏邦（〃52ギ）○梶原　善之（〃53ギ）
○清水　　晋（〃53ギ）○蛇沼　俊二（〃53ギ）
○宮澤　晴彦（〃53ギ）

監　　事

○山本勝太郎（昭42ギ）○増田　宣泰（昭51化）

学外理事

鈴木　恒由（昭20エ）　西山　作蔵（昭22ギ）
斎藤　昭二（〃23エ）　森　　武彦（〃23セ）
小川　裕章（〃23ゾ）　船矢　昭三（〃23ゾ）
鹿角　幹夫（〃24エ）　長澤　正徳（〃24セ）
高野　洋蔵（昭24セ）　増田　紀義（昭25エ）
佐々木　建（〃25教ゾ）　木村　順治（〃26ギ）
山内　彬一（〃26ギ）　穴澤　邦雄（〃26セ）
大上　博司（〃26セ）　中道　克夫（〃26ゾ）
橋本幸二郎（〃26ギ）　五十嵐脩蔵（〃28ギ）
佐野　典達（〃28エ）　工藤　駿一（〃28セ）
中村　哲也（〃28セ）　名取　喜昭（〃28セ）
寺地　　潔（〃28ゾ）　伊藤　　一（〃29ギ）
太田　雄一（〃29ギ）　坂本　有隣（〃29エ）
池田昌一郎（〃29セ）　岡川　　伸（〃29セ）
大島　栄一（〃30エ）　富田　幸二（〃30セ）
服部保次郎（〃31エ）　箕田　　嵩（〃31ゾ）
羽田野六男（〃31セ）　高野　和則（〃32ゾ）
山崎　文雄（〃33ゾ）　島崎　健二（〃33エ）
川島　清明（〃33エ）　高島　　優（〃33エ）
菊地　英樹（〃34エ）　米田　義昭（〃34セ）
齊藤　勝男（〃34ゾ）　高間　浩蔵（〃35セ）
山本　弘敏（〃35ゾ）　斎藤　　毅（〃36ギ）
梨本　勝昭（〃36ギ）○小祝　良介（〃36エ）
大割　　了（〃37ギ）　繪面　良男（〃37セ）
○河村　章人（〃37ゾ）　古井　恒弘（〃37ゾ）
麦谷　泰雄（〃37ゾ）　安間　　元（〃38エ）
西田　清義（〃38セ）○天下井　清（〃39エ）
吉川　正彦（〃39食）　西村　紀夫（〃39セ）
○林　　賢治（〃39セ）　菅野　泰次（〃39ゾ）
○奥野　信博（〃40エ）　小越　征夫（〃40エ）
木村　　昇（〃40セ）　見上　隆克（〃41ギ）
上平　幸好（〃41ゾ）　岸本　富男（〃42ギ）
眞木　序夫（〃42エ）　蔵多　一哉（〃43化）
工藤　昭彦（〃44ゾ）　伊藤　悦郎（〃45ギ）
三佐川　稔（〃45ギ）　今井　信幸（〃47ギ）
赤沢　和範（〃47ギ）　中林　重雄（〃47ギ）
近江　政斗（〃47食）　陸田　　彰（〃47化）
中　　昭成（〃47ゾ）　黒瀬　道則（〃47ゾ）
土谷　俊一（〃48ギ）　吉田　悟郎（〃48ギ）
坂本　幸造（〃48食）　吉田　正人（〃48ゾ）
二瓶　幹雄（〃50食）　上戸　慶一（〃50化）
中尾　博己（〃51ギ）　長谷川栄治（〃52食）
○上野　孝雄（〃53ギ）○上野久仁夫（〃53化）
○備前　　悟（〃53化）

学外幹事

松井　良樹（昭54ギ）　宮岡　秀昌（昭55ゾ）
広崎　淳一（〃55ギ）　正木　悦郎（〃55ギ）

種田　貴司（昭56食）　高　日出人（昭56ゾ）
藤田　公美（〃57ギ）　小林　良一（〃57食）
嶋田　隆司（〃57化）　阿部　純也（〃58ギ）
桐山　　智（〃58ギ）　横山　信一（〃58ギ）
佐藤　直孝（〃58食）　宮園　　章（〃58ゾ）
小野　　浩（〃59食）　吉岡　武也（〃60食）
吉田　秀嗣（〃60ゾ）

地方理事

（稚内）　風　無　成　一（昭41ギ）
（留萌・増毛）　吉　田　俊　一（〃23ゾ）
（紋別）　片　岡　　靖（〃42ゾ）
（網走）　○金　澤　　克（〃40セ）
（根室）　望　月　英　明（〃30セ）
（厚岸）　山　本　洋　一（平２ギ）
（釧路）　清　水　富士雄（昭36エ）
（旭川）　斉　藤　隆　司（〃46化）
（十勝）　佐　藤　　裕（〃24セ）
（苫小牧）　木　村　　実（〃48食）
（室蘭）　小　林　政　利（〃40ギ）
（札幌）　林　　和　明（〃38ゾ）
（札幌）　中　津　俊　行（〃39ゾ）
（札幌）　番　匠　義　紘（〃40ゾ）
（小樽）　中　村　　正（〃17セ）
（余市）　○川　村　一　廣（〃33ゾ）
（青森）　佐　藤　立　治（〃36エ）
（八戸）　田名部　政　春（〃23ギ）
（秋田）　佐々木　　健（〃35セ）
（村山）　西　長　秀　雄（〃25ゾ）
（庄内）　荒　木　昭　夫（〃25セ）
（盛岡）　井ノ口　伸　幸（〃52ゾ）
（宮古）　倉　兼　賢　治（〃47ギ）
（久慈）　船　越　芳　則（〃55食）
（釜石）　白木澤　孝　也（〃25ギ）
（仙台）　渡　辺　　宏（〃39セ）
（石巻）　小　池　幾　世（〃53ギ）
（気仙沼）　千　葉　敏　朗（〃46ゾ）
（福島）　薗　田　善　一（〃36エ）
（茨城）　原　田　和　民（〃24教ゾ）
（栃木）　下河原　　修（〃25セ）
（埼玉）　吉　川　晴　二（〃41ゾ）
（館山）　安　田　健　治（〃56食）
（銚子）　山　口　隆　夫（〃53化）
（千葉）　小　泉　　守（〃32セ）
（東京）　鉢　木　和　三（昭38ゾ）
（東京）　菊　本　　肇（〃40ギ）
（東京）
（神奈川）　金　澤　時　夫（〃49食）
（三崎）　本　田　光　一（〃23エ）
（静岡）　○奥　原　大　典（〃42セ）
（長野）　小野里　　坦（〃37ゾ）
（新潟）　○守　屋　義　秀（〃36セ）
（富山）　竹　長　公　彦（〃34エ）
（石川）　江　渡　唯　信（〃22ゾ）
（福井）　田　中　傳四郎（〃24ギ）
（愛知）　深　谷　　勲（〃36セ）
（京都）　目　片　徳　治（〃33ゾ）
（滋賀）　澤　田　宣　雄（〃57ゾ）
（三重）　堀　口　吉　重（〃20セ）
（大阪）　入　江　和　彦（〃45ギ）
（兵庫）　○岡　村　武　司（〃53ギ）
（和歌山）　小　橋　保　智（〃32ギ）
（鳥取）　山　本　栄　一（〃52ゾ）
（岡山）　土　屋　和　弘（〃35ギ）
（広島）　堀　田　敬　三（〃35セ）
（島根）　前　田　善三郎（〃31セ）
（関門）　佐　島　隆　治（〃30セ）
（香川）　黒　川　康　彦（〃18ギ）
（愛媛）　○桑　原　彰　三（〃53ゾ）
（徳島）　小　黒　美　樹（〃23セ）
（高知）　細　木　忠　義（〃17ヨ）
（福岡）　石　尾　眞　弥（〃19セ）
（佐賀）　花　城　勝　也（〃26ギ）
（長崎）　阿　部　茂　夫（〃22ギ）
（熊本）　村　上　　一（〃31セ）
（大分）　武　田　晴　美（〃56ギ）
（宮崎）　山　崎　正　治（〃24エ）
（鹿児島）　松　田　恵　明（〃41ゾ）
（沖縄）　西　銘　史　則（〃54修ギ）
（北米地区連絡所・北米エルム会内）
真　板　洋　輔（〃32エ）

平成17年度本部幹事

		直通電話番号 市外局番（0138）
幹事長	猪上徳雄	（昭41セ）40－5572
副幹事長	○高橋豊美	（〃44ギ）40－8820
庶務部	池田勉	（〃43ゾ）40－5541
	○蛇沼俊二	（〃53ギ）40－8838
	東藤孝	（平２ゾ）40－5546
会計部	○川合祐史	（昭55食）40－5583
	○高津哲也	（〃63ギ）40－8822
	細川雅史	（平２食）40－5530
編集部	阿部周一	（昭46ゾ）40－8864
	○平石智徳	（〃51ギ）40－5586
	安藤靖浩	（〃63化）40－8803
組織部	○吉水守	（〃47食）40－8810
	浦和寛	（平３ゾ）40－8859
	○宮下和士	（〃２ギ）40－8856
事務局	吉田秀美	42－3681

平成17年度会計部予算案（資料６）

１）一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,573,205	
	会費	10,000,000	2,500人見込み
	親潮広告料	300,000	
	雑収入	100,000	
	合計	13,973,205	
支出	親潮印刷費	1,600,000	発行２回
	通信・運搬費	1,600,000	親潮発送費（２回分）含む
	総会旅費	800,000	大阪開催
	備品費	50,000	
	消耗品	300,000	
	会議費	50,000	
	振替手数料	150,000	
	事務嘱託費	2,060,000	
	組織強化費	1,000,000	総会補助40万円、本部役員会補助12万円等を含む
	傭人費	150,000	
	雑費	30,000	
	名簿会計へ	1,300,000	
	ＯＡ機器整備費(積立)	100,000	
	ＨＰ維持費	120,000	@10,000円×12回
	100周年準備金	500,000	積立４年目
	予備費	4,163,205	
	合計	13,973,205	

２）平成17年度ＯＡ機器整備費（積立）予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	0	
	一般会計より積立	100,000	
	合計	100,000	
支出	次年度繰越金	100,000	
	合計	100,000	

３）100周年準備金予算案（平成19年まで６年間積立）

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,500,000	1,500,000	
	一般会計より	500,000	500,000	積立４年目
	合計	2,000,000	2,000,000	
支出	次年度繰越金	2,000,000	2,000,000	
	合計	2,000,000	2,000,000	

４）特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	20,193,857	
	合計	20,193,857	
支出	次年度繰越金	20,193,857	
	合計	20,193,857	

平成17年度編集部（親潮発行）予算案（資料７）

号数	発行年月日（締切り）	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
285	H17．9　（７月末）	40	8,200	800,000	
286	H18．3（1月15日）	40	8,200	800,000	
合計	合計	80	16,400	1,600,000	

注）印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

平成17年度組織部（名簿会計）予算案（資料８）

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,404,006	
	一般会計より繰入	1,300,000	名簿積立金
	広告料	1,725,000	
	合計	4,429,006	
支出	印刷費	3,156,000	3,000部
	通信運搬費	300,000	
	振込手数料等	20,000	
	予備費	953,006	
	合計	4,429,006	

創基100周年記念事業の準備状況について

幹事長　猪上　徳雄（41セ）

第85回北水同窓会総会は名古屋市で開催され、懸案となっていました水産学部創基100周年記念事業に関連します組織の構築、記念事業推進後援会会則等の議案を了承していただきました。今回の開催にあたり、ご尽力いただきました愛知支部会員の皆様にお礼申し上げます。

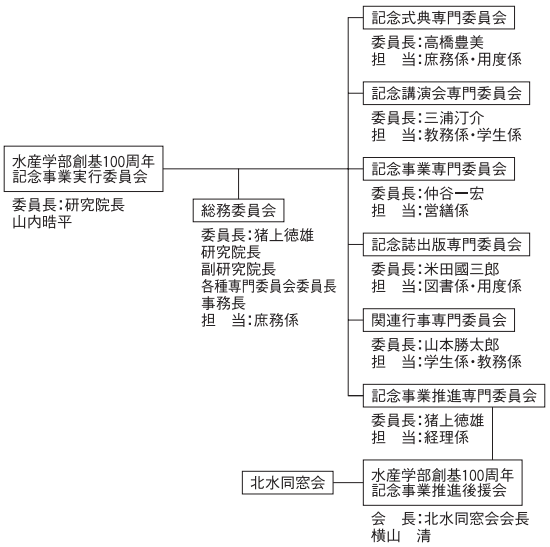
平成19年に迎えます創基100周年記念事業については、平成16年度の１年間をかけて精力的に準備に取り組み今回の定期総会に間に合うことができました。水産学部側の準備として水産学部創基100周年記念事業実行委員会（実行委員会）および関連する７つの専門委員会の設置が完了しています。また、北水同窓会としても今回水産学部創基100周年記念事業推進後援会（推進後援会）の設置と会則が承認されました。これで学部と同窓会の両輪の組織が整いました。水産学部教職員および同窓各位のご協力に感謝いたします。

これから実行委員会と推進後援会の連携を取りながら、当面募金活動の行動に移ることになります。北水同窓会の横山新会長および函館支部の島崎新支部長とも密に連絡を取りながらそれに取り組みたいと考えております。

大学（母校）は自分の大学に魅力を感じて入学した学生に対して責任をもって教育し、社会が必要とするところに送り込むことは今まで以上に重要となります。しかし、そのような環境作りに少しでも役立つような基金を必要としています。もちろん、自助努力をすることは当然ですがそれだけでは活動資金は十分とはいえない状況にあります。創基100周年という大きな節目に当たり、水産学部に学ぶ在学生は、この一世紀にわたる先達による水産学の確立を振り返ると同時に、同窓生は、さらに次の100年に向かって羽ばたく学生を支援する形で母校を応援していただければ幸いです。同窓各位のご協力をお願い致します。

創基100周年記念式典は、平成19年５月26日（土）、27日（日）の両日を予定しております。また、第87回北水同窓会定期総会も同時開催の予定です。これに合わせて同期会の開催も計画していただければ幸いです。

水産学部創基100周年記念事業の実行組織



―◆ 会員の受賞 ◆―

梨本勝昭氏（36ギ）平成16年度日本水産学会賞功績賞受賞

山本勝太郎（42ギ）

平成17年４月２日、東京海洋大学で開催された平成17年度日本水産学会大会の総会において、北水同窓会会員、梨本勝昭氏（北海道大学名誉教授）は「漁獲機構と選択性に関する一連の研究」の顕著な功績と学会の評議員および理事としての多大な貢献により平成16年度の日本水産学会賞功績賞を受賞されました。

梨本勝昭氏は、持続的な漁業生産を実現するためには、漁業を通じて得られる漁獲情報を基に、来遊魚群の量的、質的な評価を行うことが必要であり、そのためには漁具の漁獲特性を十分明らか

にしておくことが重要であるとの考えから、漁具特性を漁獲の過程から捉え、対象生物と漁具の物理的視点から、漁獲選択性と漁具効率に関して多くの優れた研究成果をあげられました。受賞の対象となった研究は以下の３つにまとめられます。

１．「刺網の漁獲選択性に関する研究」は、刺網による漁獲過程を感網から船上漁獲に到るまでの７つに分け、魚と網との力学的諸関係（網地目合、網糸直径、網糸弾性、魚種、魚の肥満度、魚肉の弾性、魚の遊泳力）から、魚が網目で保持される機構を解析し、刺網の漁獲選択性について明らかにしたものである。２．「貝桁網漁具の漁獲特性に関する研究」は、北海道海域における潜砂性の二枚貝を対象に研究を進め、貝の三次元的姿勢と爪間隔、網目の形状、大きさとの関係から、爪と網目から抜けない確率を算出するモデルを構築し、桁網の選択性曲線を理論的に求めたものであり、また同氏が実施した同じ桁網二台を前後に連結して同時に曳網する方法は、今日、貝桁網の資源量調査に広く活用されている。３．「漁具の生物選択性に関する研究」は、資源の有効利用と漁業管理の観点から、これまでの物理選択性に主眼がおかれた漁具研究に、漁獲対象生物の運動、行動、聴覚、視覚などの生物選択性を取り入れた行動計測学的研究である。

同じ研究室で学生の教育研究に携わってきた者して、先輩である梨本勝昭氏の受賞を心からお祝いするとともに、この度の受賞の栄誉を皆様と分かち合いたいと思います。

関　伸夫氏（42修化）
平成16年度日本水産学会賞功績賞受賞

埜澤　尚範（特）

本年４月、東京海洋大学で開催された平成17年度日本水産学会大会総会において、本学教授、関伸夫氏は「水産食品のタンパク質に関する一連の研究」における顕著な功績により日本水産学会賞功績賞を受賞されました。

関伸夫氏は、昭和42年に北海道大学大学院水産学研究科修士課程を修了後、同大学院博士課程に進学され、昭和43年に博士課程途中で生物化学講座の助手になられました。その後、昭和62年助教授、平成４年教授に昇任、平成12年４月からは本学大学院水産科学研究科教授として、教育・研究に精力的にご活躍されています。

このたびの功績賞受賞は、氏が長年にわたって行なってきた魚介類筋肉タンパク質の食品学的研究、特に筋肉に内在する酵素が原料および加工食品の品質に強く関わっていることを分子レベルで解明し、水産食品の保蔵と製造技術における基礎理論を著しく進展させるとともに、応用面での一層の発展に尽くした功績に加え、水産学会における評議員としての貢献が高く評価されたものです。関伸夫氏は、特に魚介肉の鮮度に関してαアクチニン、コネクチン等の筋原繊維タンパク質と品質との関連を詳細に研究され、魚介肉の保蔵分野の発展に尽くされました。最近はスケトウダラ肉の品質に関わる新規タンパク質 aspolin の発見、また魚介肉の鮮度保持に細胞の酸素呼吸が非常に重要であることを提唱し、刺し身の生存保蔵方法の開発を行なうなど新たな展開を図っておられます。また、ねり製品の加熱ゲル形成機構、特に坐りと戻りの機構を詳細に研究され、魚肉中にタンパク質架橋酵素トランスグルタミナーゼが存在すること、かまぼこの“足”形成が本酵素によるミオシンの架橋形成反応に基づくことを見いだし、坐り反応の本質を解明されました。

以上のように同氏は水産食品の保蔵や製造に密接に関与する筋肉タンパク質や酵素の基礎から応用にいたる研究を精力的に展開し、水産学の発展に大いに尽くされました。長年にわたって氏から指導を受けた者として、今回の受賞を心よりお祝いするとともに、北水同窓会会員の皆様に慎んでご報告させていただきます。

上田　宏氏（50ゾ）
平成16年度日本水産学会賞進歩賞受賞

足立　伸次（55ゾ）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授、上田宏氏は本年４月の日本水産学会総会において、「サケ科魚類の母川回帰機構に関する生理・生態学的研究」の顕著な業績により、日本水産学会賞進歩賞を受賞されました。

同氏は昭和50年水産増殖学科を卒業された後、大学院に進学され、魚類脳下垂体の生殖腺刺激ホルモン産生細胞に関する細胞学的研究で博士の学位を取得されました。その後、基礎生物学研究所および産業医科大学では、形態学に加え内分泌および生化学的手法を駆使し、魚類および哺乳類の精子形成機構に関する研究を推進されました。平成３年には北海道大学水産学部洞爺湖臨湖実験所助教授として採用され、本受賞研究であるサケ科魚類の母川回帰機構に関する研究を開始されました。

同氏は、北洋から北海道に回帰するシロサケ、カラフトマス、ベニザケおよび洞爺湖と支笏湖に生息するヒメマスとサクラマスを用いて、サケ科魚類の母川回帰機構に関する生殖生理学、感覚・神経生理学および行動生態学的研究を多角的に展開されました。生殖生理学的には、脳（生殖腺刺激ホルモン放出ホルモン：GnRH）―脳下垂体（生殖腺刺激ホルモン）―生殖腺（ステロイドホルモン）系ホルモンの分泌動態を解析され、GnRH が母川回帰行動に重要であることを明らかにされました。感覚・神経生理学的には、嗅覚機能を電気生理学的および選択行動実験により解析され、各河川水に溶解している河川固有のアミノ酸組成が重要であることを明らかにされました。行動生態学的には、種々のテレメトリー手法を用いて母川回帰行動を解析され、視覚および嗅覚を用いた特徴的な母川回帰行動を明らかにされるとともに、母川回帰行動を自動追跡するロボット船の開発を行なわれました。

以上のように、同氏の研究は生理学から生態学まで幅広く展開され、これらの多彩な研究成果は、水産学的に重要な基礎的・応用的な新知見を多数提供するとともに生物学上の意義も極めて高く、国際的にも高く評価されています。今回の受賞を機に、上田先生の一層の活躍が期待されています。

植松光夫氏（50化）
日本地球化学会賞受賞

板橋　　豊（50化）



日本地球化学会は2004年９月21日、「海洋大気エアロゾルの挙動と組成変動に関する地球化学的研究」に対し、植松光夫氏（現在東京大学海洋研究所教授）に2004年度日本地球化学会賞を授与しました。

同氏は、水産化学科分析化学講座を卒業後、水産学研究科水産化学専攻博士課程を修了、その後、米国に渡り、ロードアイランド州立大学海洋学大学院で７年間を研究員として過ごしました。帰国後、北海道東海大学工学部助教授、教授を経て、1997年に東京大学海洋研究所に着任され、現在に至っております。

植松光夫氏は1980年代に黄砂が北太平洋の広域に輸送されていることや、数千キロメートルも運ばれた黄砂粒子が北太平洋中央部において、海洋生物生産を高めたことを見出すなど、アジア大陸からの大気物質の海洋環境への影響を明らかにしました。さらに、黄砂の発生と輸送過程の気象学的解析、天然放射性核種を用いた解析や人工放射性核種の地球規模の拡散の研究などにより、大気物質の長距離輸送モデルの基礎と検証の先鞭をつけました。その後、自然起源と人為起源エアロゾルが混在し、その変質過程が顕著に現れる海域である西部北太平洋を中心にして研究を推進し、新しい観測プラットフォームとしての無人海洋大気

観測艇「かんちゃん」の実用化など幅広く顕著な業績をあげ、今回の受賞となりました。学部関係者では1990年に角皆静男氏（特）、2001年に野崎義行氏（44化、故人）についで３人目であり、水産学部が地球環境への海洋の果たす役割について、多くの人材を輩出して来たことは、特筆すべきことかと思います。植松光夫氏の益々の活躍が期待されています。

ー◆　寄　　稿　◆ー

北　水　テ　ニ　ス　部

海洋生物資源化学科４年
清水　茂雅（学生会員）

この度は『親潮』に投稿させていただく機会を設けていただき厚くお礼を申し上げます。潜越ながらこの場をお借りして私たち北水テニス部の活動を紹介させていただきます。

現在、北水テニス部は男子10名、女子１名の計11名の精鋭（？）で活動しています。その大半が昨年秋に入部してきた３年生です。その中には札幌キャンパスで体育会やサークルで腕をならした猛者もいれば、函館キャンパスに移行してきてからテニスを始め、今ではめざましい成長を遂げた者もいます。上級生たちも後輩たちに負けたくないという思いもあり、そんなわけで少数ながらも北水テニス部は活気に満ち溢れています。活動日や時間については、シーズン中は特に指定はしていません。各自、空いた時間を見つけてはテニスコートに来て練習に励むといった次第です。それでも部員は更なるレベルアップのためにコートで頻繁に練習しています。練習内容はショートラリー、ボレー・ボレー、ロングラリー、ストローク・ボレー、スマッシュ、サーブ＆リターンのウォーミングアップの後、球出しや形式練習、試合などその都度に合わせた練習メニューをこなしています。

今年度は部員の意識も高まり、３年ぶりに学連に復帰し、王座（団体戦）の６部予選リーグに出場しました。結果は惜しくも５部昇格はなりませんでしたが、来年に向けていい経験となったはずです。自分は今年度が最後の試合ではありましたが、後輩たちの来年への意気込みは高く、きっと来年は昇格を果たしてくれるに違いありません。

年間の行事として新歓コンパ、追いコン、合宿、旅行などそのときに応じて色々な行事を勢いで行います。少ないからこそできることも多く、みんなで和気あいあいと楽しんでいます。

少数でも切磋琢磨し更なるレベルアップをはか



り、来年こそは５部昇格を達成してほしいと心より思います。

最後に、いつも温かい目で部員を見守り、いつも的確な助言をしてくれる顧問の関秀司先生に感謝したいと思います。

ー ◆ 支部・会員だより ◆ ー

平成16年度北水同窓会 長崎支部例会報告

大坂　幸男（63ゾ）

標記例会が11月６日、長崎市内のホテルで行われ、本支部会員９名が出席致しました。始めに支部旗を背に集合写真を撮影した後、中部長次郎（17ギ）支部長の挨拶を頂きました。その後、会計報告、近況報告が行われ、岩見真一（17ギ）副支部長の乾杯のご発声を受け、当支部の新しいメンバーとして山崎　誠（50ゾ）さん、河邊　玲（平７ギ）さんが発表され、中村好和（51ゾ）さん、横沢　康（平12シ）さんの異動が紹介されました。一方、いつも例会に参加してくださっている会員の方々が体調を理由に出席されていないことなど残念な報告もされました。緊張もほぐれ、予定時間をはるかに過ぎて盛会となり、最後の「締め」を阿部茂夫（22ギ）さんに行って頂き、今年度の例会は幕を閉じました。

このように長崎支部では毎年10月末～11月上旬に例会を行っています。長崎県内にお住いの方で本支部から連絡のない方、近県にお住いで本支部の例会に参加してくださる事が可能な方、本支部ではそんな皆様をお待ちいたしております。お気軽に大坂（63ゾ）までご一報下さい、大歓迎です。

［参加支部同窓生］

長崎支部：中部長次郎（17ギ）、岩見真一（17ギ）、阿部茂夫（22ギ）、大滝英夫（23ギ）、木村義徳（24ギ）、豊島友光（26ゾ）、西ノ首豪陽（38特専）、大泉拓二（50ギ）、大坂幸男（63ゾ）

連絡先（会計幹事）：大坂　幸男（63ゾ）、西海区水産研究所（095-860-1600）

埼玉県支部総会と懇親会報告

吉川　晴二（41ゾ）

今年度も２月12日（土）に同総会を開催致しました。出席者11名と少なかったですが、楽しい会となりました。

開催地のさいたま市は政令都市となり、今年４月からは隣りの岩槻市とも合併し、人口120万となり、広島市を抜いて全国で９番目の大世帯となりました。御存知の様に埼玉県は海なし県でありますが、同窓は250名を越えています。東京の通勤圏である為、やはり都内で活躍している方が多いと思われます。

今の悩みはやはり集まる人数が少ないことで、何とか出席者を増やしたいと考えておりますので「親潮」を御覧の諸氏に協力をお願いする次第です。

さて、出席者を写真の順に招介致しますと下記の通りとなります。皆元気で頑張っております。

それぞれ現況報告とやはり函館時代の話で盛り上がり、記念撮影をし、「都ぞ弥生」を合唱して会を締めくくりました。

（写真の氏名紹介）

前列左より

五十嵐憲治（37エ）、高山允雄（37ギ）、増田清

岩（32セ）、吉川晴二（41ゾ）、上村　力（28セ）、小山　光（29セ）
後列左より
白井純二（48食）、白崎博一（46化）、市川浩次（36セ）、大野錠治（32エ）、安藤　隆（48ギ）



小樽支部総会・懇親会の報告

平山　　聡（54ギ）

例年に無い大雪に見舞われた北海道ですが、ここ小樽も例外ではなく、これでもか、まだ降るか、もうたくさんだ、というくらいの大雪が降っています。そんな中、小樽支部恒例の総会・懇親会が、平成17年２月25日、市内「うしお亭」にて開催されました。水産高校職員、市役所職員を中心に16名の参加でした。

支部長成田安孝（43ゾ）の挨拶に始まり、活動報告・会計報告と議事が進み、次年度の役員選出（全員留任）の拍手承認で議事終了、懇親会へと移りました。最年長の工藤豊（23セ）の乾杯の音頭で、近況報告も含め、旧交を温めているうちに、２時間があっという間に過ぎてしまいました。しかし、年配の会員と若い会員の交流もあっ



て、年に一度の貴重な時間を過ごすことができました。最後に副支部長小田一夫（45ギ）の締めの乾杯があって懇親会を終了しましたが、まだまだ飲み足りない方々は、その後、雪の降りしきる小樽の街に、それぞれ連れだって消えていきました。

毎年、この時期に総会が開かれます。今まで出席されたことのない会員の皆様も、是非参加していただきたいと思います。

参加者

前列左から

最上賢一（36セ）、石橋政雄（30ギ）、成田安孝（43ゾ）、工藤　豊（23セ）、藤田征晴（31ゾ）

中列左から

平山　聡（54ギ）、堀井亜希（平９食）、小田一夫（45ギ）、勝木　茂（31ギ）、山本十三（平３ギ）

後列左から

亀山喜明（63食）、梅崎真大（平10ギ）、五十嵐映児（48化）、高野幹男（45ゾ）、大山知幸（平元化）

平成17年度北水同窓会
長崎支部例会報告

大坂　幸男（63ゾ）

標記例会が４月16日、長崎市内の居酒屋で行われ、当支部会員13名が出席致しました。始めに支部旗を背に集合写真を撮影した後、中部長次郎（17ギ）支部長の挨拶を頂きました。その後、岩見真一（17ギ）副支部長の乾杯のご発声を受けました。さらに新メンバーとして、八戸市より転勤されてきた北川大二さん（49ギ）が発表されました。一方、いつも支部会に参加してくださっている会員の方々が体調を理由に出席されていないことなど残念な報告もされました。緊張もほぐれ、盛会となり、最後の「締め」を大泉拓二（50ギ）さんから頂き、支部会は幕を閉じました。

今年より長崎支部では春季と秋季の年２回に例会を行うことになりました。次回秋季例会は、高級中国料理を囲んで盛大に行う予定です。皆さん是非、ご参加下さい。

今回の支部会にご参加頂けなかった方、県内にお住いで本支部から連絡のない方、近県にお住いで本支部の例会に参加してくださる事が可能な方、本支部ではそんな皆様をお待ちいたしております。お気軽に大坂（63ゾ）までご一報下さい、大歓迎です。

［参加支部同窓生］



長崎支部：中部長次郎（17ギ）、岩見真一（17ギ）、阿部茂夫（22ギ）、大滝英夫（23ギ）、木村義徳（24ギ）、西ノ首豪陽（38特専）、北川大二（49ギ）、大泉拓二（50ギ）、藤田伸二（55修漁）、征矢野清（61ゾ）、大坂幸男（63ゾ）、市川寿（平元博化）、長江真樹（平３ゾ）
連絡先（会計幹事）：大坂幸男（63ゾ）、西海区水産研究所（095-860-1600）



八紘会（昭和17年9月高水卒）の集い

添田　　恒（17ヨ）

平成17年４月29日、横浜駅近くの崎陽軒本店２Ｆの「嘉宮」で昼食会を開催、出席者８名、全員83～85才に達し、杖を頼りの参加者も増え、しみじみと老齢化を感ずるが、元気一杯で談笑した。席上、春秋年２回の開催を希望する声が多く、次回は10月に再会することを約して散会した。当日の出席者は次の通り。

青戸　偕爾、新井　邦夫、坂田　章雄、
清水　栄一、島崎　清康、宮本　方正、
遊佐多津雄、添田　　恒

第18回久喜会の開催報告

田寺　伸彦（18ギ）

函館高等水産学校最後の卒業生が、昭和18年９月卒業の第９期生。私達は９期を久喜と読み替えて、クラス会の名にして居る。その久喜会の第18回総会を去る５月25・26日、平成７年阪神淡路大震災の壊滅的な大被害から見事立ち直り復興なった、神戸港沖合埋立地の《ポートピアホテル》で盛大華麗に開催した。参加総勢は13名と少し寂しいが、何時か80歳を超えて仕舞った元高水生８名と同期生夫人の５名である。ホテル30階に設営した総会宴席は海抜で約百米、昼夜共天候に恵まれ眺望は絶佳であった。赤い夕焼け空の下、北側には奇麗に整備された神戸の街並みに続く摩耶六甲の山々、南側には直ぐ下に来年２月開港予定の神戸空港、遠くに大阪の市街や関西国際空港までも望まれた。予定通り午後４時過ぎには全員が総会宴席に集合し、再会を喜んだり周囲の眺望を楽しんだり、矢張り写真は撮って置こう等と賑やかな事であった。

午後６時からの総会は先ず、戦火に散り病床に倒れた亡き同期達の冥福を祈る黙祷から始め、宴会に入った。地元世話人らは何か昔話の種にでもなればと、総会の参考資料に今は古文書に近い昭和十七年度高水報国團誌と、卒業した同期生全員の今も覚えて居る懐かしい名前が記載された昭和十八年親潮十月号のコピー類を準備して居たが、此れが早速に話題となり「生者必滅会者定離なのか、同期の数が随分減って仕舞ったなあ」等と話が弾む内に、不景気も馬齢も忘れて、函館の七重浜に建つ高い煙突の有る学校の話や、五稜郭での乱闘騒ぎの事、北晨寮のピンポン室の話等など、次々と懐かしく喋り合って居た。暫くして、各自の近況報告に続き、我々年々爺さんになって行くが「今後、久喜会をどうすべえか、続けるか、止めるか」が話題になった。然し、誰言うと無く「来年何月に、久喜会が在ると言う事が、我々年寄りの楽しみになり、目標になるのではないか」との結論となり、来年の久喜会は、是非とも交通至便の東京開催を話し合った。宴の最後は、何時も通りの「星の像に憧憬れて」の嗄れ声での大合唱である。遥か遠い昔日の昭和16年４月、何故か海に魅せられ水平線に憧れて、全国各地から青函連絡船等に乗り函館高水に馳せた夢多き好漢達の、懐かしくも哀しいような嬉しいような、人生の過ぎ行く中の貴重な一時である《元気再会の第18回久喜会》であった。

早くから御夫妻で出席を楽しみにして居た黒川・桝富の両君、開催日の前日前々日の、全く予期せぬ突然の病気に因る欠席は、御本人と同様出席者全員にとっても、何んとも残念至極であった。そして、ご主人を亡くされた藤井夫人と星夫人の御出席は、真に有り難く胸熱くなる嬉しい事だった。

宴果てた夜更け、大東亜戦争を強かに生き抜いた、往年の水産戦士らは、何を思うのか、ホテル30階のスカイラウンジに佇立して、エキゾチックに美しい港神戸の夜景と月光を浴びる静穏の大阪湾を、何時までも眺めて居た。

薫風の再会嬉し神戸沖
再会は微笑みの詩夏の月



（前列左より）大脇夫人、星　夫人、藤井夫人、柚木一男、本間貞吉、
本間夫人、
（後列左より）田寺夫人、田寺伸彦、大脇三郎、小林大助、馬場勝彦、
篠崎忠彦、鈴木誠司、以上13名。
なお、右端は中国大連市から久喜会に届いた、林乃琪の「書」です。

北水マンドリンクラブの集い 札幌と函館で開催

草刈　宗晴（39ゾ）

元北水マンドリンクラブ部員による集いが開催された。このクラブは昭和34年にマンドリンとギターの４名の同好会から昭和36年にクラブに発展、マンドリンのために作曲されたオリジナル作品（プレクトラム音楽）を追求することを目標に活動を開始した。新人部員を募集、徹底した個人指導を通して２年半では難しいとされていた奏者の養成に成功、学内の大学祭、民間施設へ慰問演奏、高校部活動への技術指導など活動を開始。昭和39年に函館市公民館で第一回演奏会を開催、その後毎年定期演奏会を開き第９回（昭和48年）までの実績を残し、函館市民、大学のマンドリン連盟に名を記すこととなった。昭和50年に函館市民会館で特別演奏会を最後に、部員の減少により昭和60年頃に廃部となる。これまで記録に残された部員は約100余名に達した。昭和42年にクラブを支援するためＯＢ会が結成され、定期演奏会に賛助出演、楽器購入の寄付活動を行うなど、現役部員と共々クラブの存続に当たってきたが、時代のウネリには勝てず、ＯＢ会の活動も停止していた。平成16年頃から第二の人生を迎えたＯＢらが往時の思い出話をするうちに、再び会の開催を話し合うようになり、平成17年１月に札幌市、７月に函館市で共に有志による集いを開くこととなった。

札幌の集い

今井肇氏（43ゾ）と草刈が発起人となり、１月28日（金曜日）18時から、道庁と植物園との間にある中村屋旅館にて開催された。懐かしい定演の曲が流れる和室会場に到着した元部員はお互いに名前を確認しつつ再会の喜びに浸った。今井肇氏（43ゾ）の司会、草刈からクラブの活動経過などの報告、中津俊行氏（39ゾ）の乾杯、出席者の自己紹介、近況報告、今後のＯＢ会の活動予定などが紹介されるうちに、酒の酔いも手伝い全員が青春時代に戻り、会場は回顧談のハーモニー、予定された時間が瞬く間に経過、金澤克氏（40セ）の締めで、今後の再会を誓い合った。

出席者は桑原茂鴨（39ギ）、草刈宗晴、中津俊行、村山勉（39ゾ）、金澤克、鷲足将成（41ギ）、岡崎千寿（42ギ）、今井肇、小坂功（43ゾ）、置栖猛（45ギ）、藤田諄（45ギ）、帰山雅



北水マンドリンクラブ“函館の集い”の出席者
前列右から高橋亮次(42セ)、猪上徳雄(41セ)、赤羽光秋、草刈宗晴、佐々木瑳智子、宮本(旧姓表)茂子(42セ)、仲谷一宏(43ゾ)、金澤克(40セ)、寺坂紀雄、
後列右から平野忠、鷲足将成、三浦護(42セ)、守村貞太郎、木村昇、赤間健太郎(41ゾ)、吉水守(47食)、塚本志朗、小坂功(43ゾ)(敬称略)

秀（48ゾ）、岩淵雅輝（50ゾ）以上13名（敬称略）

函館の集い

佐々木（旧姓山本）瑳智子氏（42セ）が発起人となり同期の元部員及び函館近隣の元部員らに声がけし７月２日（土曜日）に開催された。弘前市の赤羽光秋氏（39ギ）から楽器を持って集まろうという発案を受け、会の当日、午後２時から５時頃まで木村氏邸でミニコンサートを開催、その後に懇親会に出席することとなった。同コンサートには13名が参加、このうち赤羽氏（マンドラ）、草刈（マンドリン）、木村昇氏（40セ、マンドセロ）、鷲足将成氏（41ギ、マンドラ）、平野忠氏（46ゾ、ギター）、寺坂紀雄氏（42セ、ギター）、木村氏の奥さん（マンドリン）の特別賛助出演も受け、定演で演奏した曲「水車小屋の娘たち」、「古戦場の秋」、「浜辺の歌」、「悪魔のすさび」、「序曲 D-dur」などを“迷演奏”、軽快で、かつ哀愁を帯びたトレモロとギター、マンドラの低音が参加者に往時の思い出を甦らせる演出となった。その後函館市大手町にある「函館国際ホテル」８階の「和風居酒屋松前」にて懇親会が開催された。守村禎太郎氏（42ギ）の司会進行で、佐々木氏の挨拶、出席者の自己紹介と近況報告、途中石巻から遠路駆けつけた塚本志朗氏（51食）のギター独奏、平野氏・寺坂氏の演奏などもあり、音楽クラブでしか味わえないハーモニーと心の融合した時空も瞬く間に過ぎ、都ぞ弥生、北晨逍遥歌を高らかに歌い上げ、次回の再会を期して赤羽氏の締めで閉会となった。

今回の集いに当たり、会場の手配、参加者への案内、取りまとめなどは函館在住の木村氏、守村氏、寺坂氏が多忙の折、幹事となり動いた。また、草刈の取りまとめによるクラブの活動経過資料が出席者の思い出を一層鮮明にしたようだ。この集いで２年後に迎える本学創基百周年記念を目標に、独自演奏会の計画が確認されたことは最大の収穫であり、第二の人生航路に大きな指針となった。

ー◆ 追　　悼 ◆ー

畏友 堀越耕二君（23セ）を悼む

髙橋日出彦（23セ）



学友、堀越耕二君78才の人生時計は、平成17年２月１日、午後３時40分、その刻みを止めた。

死亡翌日の午後、東京在住と聞いていた、長女の公枝さんから突然の電話で訃報を受け暫し呆然。

今年に入って、彼の声が聞きたくて両三度中の島の独居マンションに電話したのだが、空しくベルが鳴るばかり。ちょっと心配で葉書を出したが返信はなかった。

彼は、50才を過ぎた頃肺結核を患い、その後も度々入退院を繰り返していたようだが“最近リュウマチで全身が痛む……”と、顔を顰めていた。

しかし、一昨年東京地区の当番で催された箱根旅行で、ちょっとした体調の悪化のハプニングもあった（小生欠席）ようだが、昨年６月、函館地区の「喜寿を祝う集い」にも参加し、結構酒も飲み仲間と談笑していた姿が瞼に焼きついて離れない。

公枝さんの話によれば、昨年暮、札幌市内の総合病院に入院、約２カ月後力尽きて黄泉に旅立った――という。最終的には肺炎ということであったが……。

彼は母校卒業後、直ちに北海道水産物検査所に入り、一期上の故立木金吾さんなどと机を並らべていた。私は、道庁水産部に奉職し、岩見沢から札幌に汽車通勤をしていた関係で、列車時間の都合などで時折、道庁と札幌駅の丁度中間地点にあった水検に立ち寄り彼と駄弁ることも多かった。

お通夜の席で聞いた話によると、28才で比較的大きな厚岸水検派出所の所長を拝命、当時としては「異例の出世」という。

彼と私との仕事上で直接付き合いが出来たのは、水産物の統制も解除（昭和25年）された後、農林水産物の検査品目も削減されて民営による自主検査が主流となり、勢い水検による官営検査も縮小され、昭和33年に至り、水産部水産製品課が新たに誕生した。

彼は検査係、私は加工係にそれぞれ配属され、同室で執務するようになった。

時移り昭和48年、私が渡島支庁経済部長として函館に赴任した折、１年間だけ彼が水産課長として在任し、その後宗谷支庁の水産課長として転任していった。

この頃、彼は肺結核に冒され稚内市立病院に入院加療中で、偶々仕事で稚内に出張した折、病院に彼を見舞ったことがあった。

その後札幌に戻り、私と同じ昭和57年春道を退職した。この50年代前半に札幌で最愛の妻に先き立たれ、以後孤独の身をかこちながら20数年間を生きて来たのであった。

どちらかと言うと頑固さはあったが人は好く清廉な人柄であったから、彼の周りに人が集まり、またこれに融け込み、ゴルフなどに興ずる一時期もあったが、孤独を紛ぎらす術か、晩酌は欠かさず清酒をこよなく愛し、何かの会合には進んで顔を見せ、特に水検ＯＢで組織する“ポンポン会”には必ず出席、会がおひらきになった後は、ススキノでも場末の居酒屋Ｋで、コップ酒と昔懐しい歌謡曲をカラオケで唱う満ち足りた顔が忘れられない。

自室に１人で居ると、１日中ひと言も声を発することなく終ることも多く、人恋しさが募る……と、嘆息混じりの話は、将に拭いようのない真実であったろう。

特に、病のベットに呻吟する場においては殊更にその感が深かったと思う。

しかし、今彼の身になって考えてみると、とくに敵が居たわけでなし、或る程度自由に生きた78年の生涯は、彼にとって倖せであったのかも知れない。

通夜・告別式には折からの寒空の中、小じんまりではあったが、学友や昔の勤め仲間達に見送られて旅立つ彼には相応しい葬儀だったような気がする。

憶いは尽きないが、今までの永きにわたる交誼を謝すると共に、彼の積善の余慶がご遺族の上に豊かならんことを希い、心からご冥福を祈念し、追悼の詞に代えたい。

朋友 近岡成男君（23セ）逝く

松田　勝彦（23セ）



われらが朋友近岡成男君が平成17年４月８日、勿然として永遠の旅へ立たれた（享年79才）。去る１月持病の前立腺ガンが再発し入院されて僅か三ヶ月間でこの世を去るとは……。

３月中旬、病状悪化の報に、横浜市民病院へ駆けつけた時は、酸素マスクはして居たが、ゆっくり横向きになり対話の出来る状態であり、来る６月浅虫でのクラス会に出られるよう頑張って…と励ました処「ウン」と頷きほほ笑んだ顔が忘れられぬ。一人娘の恵子さんの昼夜にわたる悲痛渾身の看病にも拘らず（ガンは内臓・骨までも冒す）尽いに帰らぬ人となり痛恨の極みである。

「明日知れぬ花の命に雨重し」

「さくら散るそのひとひらの蝶となる」

近岡君は昭和20年４月、小樽市立中学校を卒業後、吾が校へ入学し、戦中・戦後の混乱期に我々と机を並べ、寮生活を共にし未来への夢を語りあった。昭和23年優秀な成績で卒業、と同時に大木製薬㈱八戸工場に就職、輸出向ビタミン油の製造など担当したが数年後会社の事情で工場閉鎖・退社の止むなきに到り帰郷（小樽）となった。

偶々肥料飼料問屋で道内屈指の老舗である㈱丹波屋商店（本社・小樽）が事業拡大期にあり、東光商事㈱（現在の三菱商事）とも好関係にあった

ので御紹介した処、御縁があって㈱丹波屋商店へ入社の運びとなった。爾来30有余年、庶務・人事など担当、経営の中軸にあって同社の発展に寄与され多大の功績を残されたことは周知の通り、敬服されて居る。

近岡君は生来、温厚・実直・努力の仁である。又、登山が好きで北海道の名山－羊蹄山、大雪山、駒ヶ岳など共に登頂、その青春の感動は50年経た今でも脳裡に焼きついて居る。

最愛の妻・千恵さん（故中川一雄氏御長女）が51才の若さで急逝されてより20有余年独身を通され、今から５年半前、札幌より横浜在住の愛娘の恵子さんの近くへ転居、３人の孫娘にも囲まれ余生を楽しまれていた矢先のこと!!さぞ無念であったろうと察するに余りあり……。

然し横浜在住の５年間は得意のダンス・詩吟・コーラスなどで地域社会に融けこみ大いにエンジョイされ、人生のフィナーレを飾ったとも……。

茲に哀悼の意を表し心から御冥福をお祈り申し上げる。

平成17年４月　　合　掌

御遺族の住所：〒220－0001
横浜市西区北軽井沢51
三菱重工社宅　M310
栗　橋　恵　子　様

川村輝良先生（11ヨ）のご逝去

池田　　勉（43ゾ）

本学元教授川村輝良先生（11ヨ）は、今年５月末に気管支に食物を詰まらせ七飯新病院に入院、加療中のところ、６月10日に急性肺炎を併発されて急逝されました。享年92才。お通夜、告別式は６月12・13日に平安ホール昭和（函館市昭和）でとりおこなわれました。

川村先生は北海道の北見で生まれ、昭和11年に北海道大学水産学部の前身である函館高等水産学校養殖学科をご卒業の後、北海道鮭鱒孵化場助手、次いで東北帝国大学理学部付属臨海実験所助手に採用されました。その後、昭和18年から20年まで臨時召集で横須賀第一海兵団に入隊しましたが、昭和26年北海道大学水産学部浮游生物学講座助教授、昭和46年同講座教授に昇任、昭和52年に北海道大学を定年で退官されました。この間、川村先生は多くの学生・院生の研究指導を行いました。国際的には、昭和50年にユネスコ東南アジア地域研修生に対する第二年次環境学研修の主催者として活躍されました。研究面においては、鮭鱒の餌料から海洋・湖沼の環境保全まで多岐にわたっておりますが、とりわけ「津軽十二湖」の陸水学的研究が著名で、昭和15年から23年にかけてこの研究に関して計16報の研究論文が次々と発表されています。また、日本近海や北洋、ベーリング海における放射性同位元素（炭素14）を用いた基礎生産測定の研究は、我が国の海洋の生物生産の定量的研究の先駆けとなる重要なものです。

私が始めて川村先生にお会いしたのは学部３年生のときの陸水学の授業でした。その後、浮游生物学講座での卒業研究、大学院修士論文、そして同講座の初代教授元田先生が定年退官後は二代目教授となられた川村先生から博士論文のご指導を受けました。当時の川村先生の指導方法は、「こうしなさい」と強く云われることもなく、何となく物足りなく感じましたが、今振り返ると自由な研究環境を与え下さったことに深く感謝しています。当時は博士課程３年間で学位を取得するのは困難とされておりましたが、この期限内に目的を達成できたのも先生の良きご指導の賜物です。私の分厚い博士論文原稿を律儀な文字で何度も丁寧に添削していただいたことを今でも鮮明に思い出します。学位取得後、私は13年間海外の研究所に勤務し、昭和61年帰国、後水産庁の海区研究所を経て、幸運にも再び旧浮游生物学講座（現在：プランクトン研究室）に教官として戻ってきたのは平成８年でした。早速、七飯町にお住まいの川村先生宅にご挨拶に伺ったところ、ご趣味の俳句や、奥様とご一緒に通われている社交ダンス教室のことなど楽しそうに話をされていたことを思い出します。その後、平成13年12月に奥様を亡くさ

れ、先生ご自身も目の手術をするなど、一時元気をなくされたようでした。今年にはいり、時候のご挨拶もかねて、同研究室の志賀、山口氏と一緒に先生宅をお訪ねしたのが５月の連休でした。その一ヶ月後に先生が亡くなられたことを思えば、何らかの意思が相互に働いたのかもしれません。

生前川村先生から頂いた数々のご指導に深く感謝するとともに、謹んで先生のご冥福をお祈りします。

会　員　死　亡　通　知

福岡　二郎（特）	平成16年12月28日　逝去 ご家族様より
中森　正元（８ギ）	平成16年６月12日　逝去 ご家族様より
川村　輝良（11ヨ）	平成17年６月10日　逝去 池田　勉（43ゾ）様より
高野　正治（12ギ）	平成16年５月28日　逝去 ご家族様より
福井　源次（14ヨ）	平成16年10月20日　逝去 ご家族様より
津幡　文隆（16ヨ）	平成16年６月22日　逝去 ご家族様より
植田　総一（16ギ）	平成17年１月29日　逝去 ご家族様より
玉本　一郎（16セ）	平成17年１月５日　逝去 ご家族様より
三角　俊登（16セ）	平成17年３月６日　逝去 ご家族様より
高山　正雄（17ヨ）	平成17年６月５日　逝去 浜島清正（17ヨ）様より
藤本　巻蔵（17ヨ）	平成17年３月25日　逝去 添田　恒（17ヨ）様より
中村　　正（17セ）	平成17年３月29日　逝去 ご家族様より
小川　　司（18ヨ）	平成17年５月18日　逝去 斎藤一郎（19ゾ）様より
天野　義彦（19セ）	平成17年７月16日　逝去 森　有意（19セ）様より
片山　五郎（19セ）	平成17年２月21日　逝去 愛知県支部様より
石瀬　和正（22ギ）	平成17年７月30日　逝去 東京支部様より
冨成　省治（22ゾ）	平成17年１月29日　逝去 ご家族様より
大坂　秀也（23セ）	平成17年３月15日　逝去 木村喬久(23教セ)様より
近岡　成男（23セ）	平成17年４月８日　逝去 木村喬久(23教セ)様より
堀越　耕二（23セ）	平成17年２月１日　逝去 木村喬久(23教セ)様より
山本　芳夫（23ゾ）	平成17年７月22日　逝去 吉田欣司（23ゾ）様より
佐藤　俊雄（24ギ）	平成17年７月25日　逝去 矢部　衛（51ゾ）様より
岩井　　肇（24エ）	平成17年５月11日　逝去 安井敬一（24エ）様より
清水　明樹（24セ）	平成17年４月10日　逝去 長澤正徳（24セ）様より
吉住　喜好（25ゾ）	平成17年１月13日　逝去 小林哲夫（25ゾ）様より
安達　孝男（26ギ）	平成17年４月２日　逝去 前田辰昭（26エ）様より
松岡　和巳（26エ）	平成17年３月25日　逝去 前田辰昭（26エ）様より
小林文次郎（26教セ）	平成16年12月23日　逝去 穴澤邦雄（26セ）様より
藤岡　　隆（28エ）	平成16年12月10日　逝去 佐野典達（28エ）様より
平野　榮男（29エ）	平成17年７月12日　逝去 坂本有隣（29エ）様より
村田　耕一（29エ）	平成17年２月21日　逝去 田中満穂（29ギ）様より
吉田　福衛（31セ）	平成17年３月１日　逝去 羽田野六男(31セ)様より
喜田岡　修（37セ）	平成17年３月５日　逝去 高橋孝嘉（37セ）様より
西浦　　洋（40ギ）	平成10年３月　　逝去 ご家族様より

谷本　登司（47ギ）	不明 静岡県支部様より	逝去
清水　秀樹（55ゾ）	平成16年８月16日 ご家族様より	逝去
河津　　尚（平９ギ）	平成17年４月11日	逝去

ー◆学内ニュース◆ー

学位取得者と論文題目

〔北海道大学博士（水産科学）H16. 12. 24〕

課程博士

片倉　靖次：ベーリング海スケトウダラ資源の密度依存・独立型の成長履歴解析

星野　広志：北太平洋西部海域に生息するトド *Eumetopias jubatus* の有機塩素系化合物の体内蓄積に関する研究

論文博士

赤嶺　健一：海洋鋼構造物への石灰質被膜による防食技術の研究

〔北海道大学博士（水産科学）H17. 3. 25〕

課程博士

大場　隆史：北海道南部平磯海岸における同所性ヤドカリの幼生加入機構に関する生態学的研究

岡野　誠司：成分分離型数学モデルによる船の操縦流体力推定に関する研究

貞安　一廣：魚類のターゲットストレングスの精密推定に関する研究

佐藤　　琢：オス選択的な漁獲が個体群に与える影響とそのメカニズム：ハナサキガニにおける個体群構造の改変と精子制限

島崎　光臣：Phylogenetic Systematics of the Family Ogcocephalidae（Lophiiformes）（アカグツ科魚類の系統分類学的研究）

城　　幹昌：函館湾におけるマコガレイ仔稚魚の耳石日周輪を用いた成長解析と初期生残仮説の検証

高橋　大介：夏季噴火湾表層における時計回りの環流の形成・維持機構に関する研究

高橋　聖史：Phylogenetic Systematics of the Houndsharks Family Triakidae（Chondricthyes, Carcharhiniformes）（ドチザメ科魚類の系統分類学的研究）

飛田　敦史：スルメイカとヤリイカの側線相似器官（lateral line analog）の構造と機能に関する研究

中田　和義：Conservation and Cultivation of the Japanese Crayfish *Cambaroides japonicus*（ニホンザリガニの保全および増殖に関する研究）

西部裕一郎：The biology of oncaeid copepods（Poecilostomatoida）in the Oyashio region, western subarctic Pacific: its community structure, vertical distribution, life cycle and metabolism（西部亜寒帯北太平洋親潮域におけるオンケア科カイアシ類（ポエキロストム目）の生物学的研究：特に群集構造、鉛直分布、生活史、代謝について）

馬場　勝寿：Ecological study on spawning and early life stage of the brackish water bivalve *Corbicula japoninca* in Lake Abashiri（網走湖におけるヤマトシジミの産卵及び初期生活史に関する生態学的研究）

甫喜本　憲：漁協信用事業の地域展開と再編成に関する研究

溝端　浩平：ベーリング海陸棚斜面域における渦場変動とその基礎生産量への影響－衛星観測・船舶観測・海洋循環モデルによる統合的解析－

山口　一岩：沿岸浅海域生態系の物質循環における底生微細藻類の役割

李　　垌勲：ドップラー流向流速計（ADCP）を用いた音響散乱層の生物密度推定と種判別に関する研究

小野　世吾：水産廃棄タンパク質加水分解物の高度利用に関する研究－アンジオテンシンⅠ変換酵素阻害ペプチドの生成と特性－

笠井　久会：海水電解殺菌装置による魚類飼育用水および排水の殺菌と漁港ならびに産地市場における水産物の衛生管理への本装置の応用に関する研究

熊谷　光倫：Studies on Antimicrobial Characteristics of Giant Knotweed *Polygonum sachalinense* against Fish Pathogen *Photobacterium damselae* subsp. *piscicida*
（魚類病原細菌*photobacterium damselae* subsp. *piscicida* に対するオオイタドリ *Polygonum sachalinense* の抗菌作用に関する研究）

小関　聡美：スケトウダラ冷凍すり身におけるミオシンの性状変化とすり身の品質に関する研究

野口　亮子：海洋脂質から調製した共役およびトランス脂肪酸の生理機能に関する研究

朴　　信虎：スルメイカ肉糊の加熱ゲル形成に関する研究

藤本　貴史：精子からの個体再生に向けた魚類の核－細胞質雑種に関する発生工学的研究

ヘレン　パーマー：Ultraviolet irradiation and methyl viologen-induced cellular damage in *Euglena gracilis;* Coenzyme Q9 redox status as a marker of oxidative stress
（*Euglena gracilis* における紫外線照射と methyl viologen 細胞障害および酸化ストレスマーカーとして Coenzyme Q9 ）

森　　立成：マツカワ *Verasper moseri* の染色体操作と性統御に関する研究

ﾘｻﾘﾀ ﾛｻﾚﾎｽ ｴﾄﾊﾞﾘﾅ：Molecular population genetics of masu salmon based on mitochondrial DNA sequeace analysis
（ミトコンドリア DNA 塩基配列解析によるサクラマスの分子集団遺伝学的研究）

会　員　異　動

（平成16年12月１日から５月31日）

定年退官

17．3.31	中尾　　繁（40ゾ）	環境生物資源科学専攻 多様性生物学講座
17．3.31	天下井　清（39エ）	環境生物資源科学専攻 生産工学講座
17．3.31	鈴木　　翼（特）	生命資源科学専攻 生物資源化学講座
17．3.31	林　　賢治（39セ）	生命資源科学専攻 生物資源化学講座

辞　　職

17．3.31	鈴木　鐵也（特）	生命資源科学専攻 水圏食糧科学講座
17．5.31	甫喜本　司（特）	海洋生物資源科学部門 海洋産業科学分野

昇　　任

17．4．1	五嶋　聖治（特）	海洋生物資源科学部門 海洋生物学分野教授（助教授から）
17．4．1	木村　暢夫（55ギ）	海洋生物資源科学部門 海洋産業科学分野教授（助教授から）
17．4．1	足立　伸次（55ゾ）	海洋応用生命科学部門 増殖生物学分野教授（助教授から）
17．4．1	佐伯　宏樹（特）	海洋応用生命科学部門 生物資源利用学分野教授（助教授から）

17．4．1　川合　祐史　海洋応用生命科学部門
（55食）　生物資源利用学分野教授
（助教授から）
17．4．1　藤森　康澄　海洋生物資源科学部門
（特）　海洋産業科学分野助教授
（助手から）

着　任

17．4．1　帰山　雅秀　海洋生物資源科学部門
（48ゾ）　資源保全管理戦略分野教授
（北海道東海大学工学部から）
17．4．1　井上　　晶　海洋応用生命科学部門
（平５化）　海洋生物工学分野助教授
（新規採用）

平成16年度進路状況一覧

（　）は女子の内数　ＭＣ：大学院修士課程
ＤＣ：大学院博士後期課程

水産海洋科学科

㈱ウィン・コンサル	1（1）名
㈱京呉服くるもと	1名
㈱山崎製パン	1名
㈱日本ＧＩＳ	1名
東洋水産㈱	1名
苫小牧西高等学校	1（1）名
日本ハム㈱	1名
日本中央競馬会	1（1）名
富士通アドバンストソリューションズ	1（1）名
専門学校	1（1）名
ＭＣ北大水産科学院	12（4）名
ＭＣ北大工学研究科	1名
ＭＣ北大環境科学院	14（6）名
ＭＣ東京大学大学院水圏生物科学	1（1）名
ＭＣ東京大学農学生命科学研究科	1名
ＭＣ東京大学理学研究科	1（1）名
ＭＣ京都大学農学研究科	1（1）名
北大農学部編入	1名

海洋生産システム学科

㈱ノースイ	2名
㈱モンベル	1名
㈱毎日コミュニケーションズ	1（1）名
農林漁業金融公庫	1名
北海道漁業共済組	1名
ＭＣ北大水産科学院	19（2）名
ＭＣ北大農学研究科	1名
ＭＣ北大環境科学院	5名

海洋生物生産学科

㈱ＣＧＣジャパン	1名
㈱ソフトウェアサービス	1（1）名
㈱ちよだ鮨	1（1）名
㈱日本シジミ研究所	1（1）名
(財)新日本検定協会	2（2）名
神奈川県警	1名
日本生命	1（1）名
日本通運㈱	1名
北海道ハイテクノロジー専門学校	1（1）名
北海道環境財団	1（1）名
北海道銀行	1（1）名
北海道警察	1名
北海道庁	1（1）名
明光商会	1（1）名
ＭＣ北大水産科学院	31（7）名
ＭＣ北大環境科学院	3（1）名
ＭＣ東京大学農学生命科学研究科	3名

海洋生物資源化学科

㈲ツキラ	1名
ブリストル・マイヤーズ	1（1）名
㈱菱食	1名
月島食品㈱	1名
(財)日本食品分析センター	2（1）名
(財)日本紡績検査協会	1名
札幌中央水産㈱	1名
住友製薬㈱	1（1）名
石屋製菓㈱	1（1）名
北海道エア・ウォーター㈱	1名

ＭＣ北大水産科学院	38（９）名
ＭＣ北大農学研究科	１（１）名
ＭＣ北大医学研究科	２（１）名
ＭＣ北大環境科学院	３（１）名
ＭＣ京都大学農学研究科	２（１）名
ＭＣ筑波大学医科学研究科	１（１）名
ＭＣ東京工業大学総合理工学研究科	１（１）名
女子栄養大学　３年編入	１（１）名

水産科学研究科修士課程

ＩＨＩＳキューブ	１名
ＮＴＴ東日本	１（１）名
ＷＤＢエウレカ㈱	１名
オーム社	１（１）名
カルソニックカンセイ㈱	１（１）名
キューピー㈱	１（１）名
キリンビール㈱	１名
ケニス㈱	１名
デイジー食品㈱	１名
トヨタ自動車北海道	１名
ニイウス㈱	１名
マルハ㈱	１名
ロート製薬㈱	１名
医療法人振興会	１名
王将フードサービス㈱	１（１）名
花王㈱	１名
㈱ＣＳＫ	１名
㈱ＣＳＫ	１名
㈱ＮＥＣソフトウェア	１名
㈱Ｑ＆Ｃ	１（１）名
㈱アピ	１（１）名
㈱インテック	１（１）名
㈱グーディシュ	１名
㈱ナトリ	２名
㈱ニチレイ	１名
㈱ノースイ	１（１）名
㈱ハイテック	１（１）名
㈱ポッカコーポレーション	１（１）名
㈱メンテック	１（１）名
㈱モロオ	１名
㈱土木管理総合試験所	１（１）名
丸水札幌中央水産㈱	１名
丸美屋食品工業㈱	１（１）名
月島食品㈱	１名
弘前丸魚	１名
国土交通省（国家２種）	１名
(財)海洋研究開発機構	１名
(財)食品環境検査協会	１名
(財)日本食品分析センター	１（１）名
札幌医大研究補助員	１（１）名
三井造船㈱	１名
三慶グループ	１（１）名
守山乳業㈱	１（１）名
新光証券㈱	１名
青葉化成㈱	１（１）名
青葉化成㈱	１名
川崎汽船㈱	１名
大丸藤井㈱	１名
鳥居薬品㈱	１（１）名
田辺製薬㈱	１（１）名
東急リネン・サプライ㈱	１名
東京コンピュータサービス	１名
東広島市役所	１名
東洋水産㈱	１名
当別エコロジカルコミュニティー	１名
(独)国際協力機構	１名
日清丸紅飼料㈱	１名
日本チャールス・リバー	１（１）名
日本原料㈱	１名
日本水産㈱	１名
函館市役所	１（１）名
函館大学付属柏稜高等学校	１名
富士通エフ・アイ・ピー	１（１）名
北海道漁連	１名
北海道信漁連	１名
北海道庁（上級）	２名
明治乳業㈱	１名
免疫生物研究所	１名
ＤＣ北大水産科学院	21（６）名
ＤＣ北大環境科学院	２名
ＤＣ北大獣医学研究科	１（１）名
ＤＣ東京大学工学系研究院	１名

ＤＣ九州大学農学研究院　１名
北大水産科学院　研究生　２名

水産科学研究科博士後期課程
共和コンクリート工業㈱　１名
住友重機械マリンエンジニアリング㈱　１名
(独)産業技術総合研究所　１名
北海道漁業協同組合連合会　１名
北海道庁（地方上級）　１名
水産科学研究奨励会研究員　５名
日本学術振興会特別研究員　１（１）名
東京大学　１（１）名
愛媛大学沿岸環境科学研究センター　３名
東海大学海洋学部　１（１）名
アラスカ大学　１名

有朋自遠方来不亦楽乎

（平成17年２月～平成17年７月）

（敬杯略）

海洋生物学講座（旧浮游生物学講座）
河村章人（37ゾ）2/3-4、4/28、7/6、井上武俊（平６ゾ）2/12、村井和明（59ゾ）3/15、八田聖重（平８ゾ）3/19、松山洋平（平15海）3/19、平川和正（48修増）3/23、6/4、宮崎和貴（平10ゾ）4/3、雑賀　修（53ゾ）4/11-13、7/25、土肥和彦（52ゾ）4/11、飯島亜内（平12海）5/24、竹内泰介（平８ゾ）5/24、山田雄一郎（平９ゾ）5/25-29、6/27、帰山秀樹（平11海）5/25-29、西部裕一郎（平17博環）5/25-29、李洪武（平８修増）6/4、金子　舞（平17修環）6/6、望月万美子（平10ゾ）6/6、前田恵美（平12海）6/24、吉野生壮（37ゾ）7/6、津田　敦（57ゾ）7/7

資源生物学講座（旧資源生産生態学）
城　幹昌（平12生）7/8、関口督人（平15生）7/15

海洋環境科学講座（旧海洋環境物理学）
河合里恵子（平12海）3/25、齋藤正子（平12海）3/25、鈴木大貴（平９ギ）5/7、朝日広二（平12海）5/7、大畑　聡（平６ギ）7/1

海洋環境科学講座（旧海洋学気象学講座）
山下和則（54ギ）3/8、加藤博人（平14海）3/22、光増安弘（54ギ）3/25

増殖生物学講座（旧淡水増殖学講座）
浅沼英宇（平14生）２月、高橋あかり（平15生）5/8、馬場美沙子（平17生）5/8、浜岡未知子（平17生）5/8、武井則雄（平15生）7/2、宮下忠士（平16修生）7/14

育種生物学講座（旧水産植物学講座）
二村和視（平10ゾ）7/7、寺田竜太（平５ゾ）7/20

海洋生物工学講座（旧微生物学講座）
島崎梨絵（平15海）２月、小林樹夫（61食）６月

海洋生物工学講座（旧生体高分子化学講座）
竹谷裕平（平12資）3/10、鈴木弘子（平14資）4/28、7/8、千葉　智（平元化）5/20、田中　汎（43化）7/13

生物資源化学講座（旧魚油化学講座）
小玉裕幸（平５化）5/6、熊谷鉄平（平13資）7/8

生物資源利用学講座（旧食品化学第一講座）
上野利之（平13資）5/18-19、森田直樹（平11修食）6/9，藤本章人（平12資）7/9、鈴木孝太郎（平14資）7/15

表 紙 写 真 説 明

今号の表紙写真は、水産学部管理研究棟屋上より眺めた夏の函館山です。同棟は６階建て、周囲を遮るものは何もなく屋上からは360度景色を見渡すことが出来ます。

函館湾を挟んだ写真手前には、水産加工場のほか近年出現した原色の壁をもつ大型遊技場なども写っています。かつて写真左手にあった連絡船有川桟橋は貨物ターミナルの部分を残して撤去され、水産学部のある港町一帯の海岸は新たな岸壁

整備の工事が進んでいます。写真中央から右手にはこの工事に伴って出来た広大な草地が広がっています。

《編集後記》

平成17年度の「親潮」第１号（通算285号）をお届けします。今年度は「会員名簿」発行の年に当たり、本号の「お願い」の欄に案内記事が掲載されております。住所変更の手続き、広告のお申し込み等、本号がお手許に届いてから締め切りまで余り時間がありませんのでご注意いただければ幸いです。

次号の原稿締め切りは平成18年１月15日を予定しております。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

（編集幹事　安藤靖浩）

親潮投稿規定

１．掲載文の種類と文字数などの制限

⑴ 会員の受賞：本文880字以内

⑵ 寄　　稿：本文5,280字以内
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文については３号分までとする。

⑶ 支部・会員だより：本文1,760字以内
なお、弔文については代表者一名に限る。

⑷ ご　案　内：本文880字以内

⑸ そ　の　他：掲載の可否および文字数の制限については編集部が決定する。

発　　行　平成17年８月31日
編 集 兼　猪上　徳雄・阿部　周一
発 行 人　平石　智徳・安藤　靖浩
発 行 所　北海道大学水産学部同窓会
（TEL/FAX 0138-42-3681）
Ｅメールアドレス：hokusui@hotweb.or.jp
ホームページアドレス：http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp
印 刷 所　三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長　石　川　栄　一

〒030-0183　青森市卸町１番１号
鮮魚１部　TEL　017(738)1281
鮮魚２部　TEL　017(738)1281
冷凍部　TEL　017(738)8221
塩干部　TEL　017(738)5511
加工部　TEL　017(738)6581
企画部　TEL　017(738)1281
管理部　TEL　017(738)1181
E-mail：Comment@aochuu.co.jp
ホームページ：http://www.aochuu.co.jp


檜山上ノ国沖　水深38～40m
乱積み魚礁群内部に蝟集するエゾメバル

人工魚礁による
水産資源の保護・増殖に
貢献します

海洋土木株式会社

http://www.kaiyodoboku.com
本社：東京都中央区銀座3-8-13
TEL：03-3561-3051

代表取締役　鉢木和三(38ゾ)
常務取締役　眞田篤弘(43化)
青森営業所長　青山禎夫(39ゾ)
北陸営業所長　中道五郎(39ゾ)

食品工場、厨房内の
自主検査のお手伝いをします。

★HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導
★食品の微生物検査　★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト
★食品の賞味期限の設定　★保存テストのデータ蓄積
★その他衛生指導、社員教育などの御相談をお受けします

株式会社　キュー・アンド・シー

代表取締役　奥　野　和　弘（昭和42製造）
松原　伸二（昭和62化学）　久保　雅俊（平成12資源）　佐藤いく子（平成17食品）
分析室　〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7　☎(011)786-8300 FAX(011)786-8266

豊富な実績と万全な体制でさらに前進をつづけます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD

株式会社 中山薬品商会

代表取締役社長 中 山 浩 一

本　　社 〒040-0064 函館市大手町９番１８号
PHONE（0138）23-6275･FAX22-8098
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3
PHONE（0154）52-4101･FAX52-4103
http://city.hokkai.or.jp/~nakayama/

営業種目 船舶艤装用品並各種船用品全般・諸機械・工具類
塗　料　・　帆　布　・　ロ　ー　プ
（海運局公認、膨張式救命いかだサービスステーション）

北海道大学水産学部 おしょろ丸 うしお丸 連絡事務所

北 海 道 船 用 品 株 式 会 社

取締役社長 伊　藤　大　介
支 店 長 唐　戸　幸　一
所　　長 伊　藤　陽　介

本　社　室蘭市海岸町3丁目3番5号　電話0143㈹㉒1321番
支　店　函館市弁天町２５番２号　電話0138　㉓0721番
FAX0138　㉓5420番
営業所　苫小牧市汐見町1丁目2番2-106　電話0144　㉟2601番

㈲山本食品研究所

山　本　　巌
山　本　律　彦

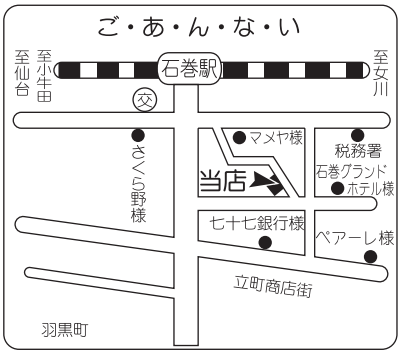
〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地
ＴＥＬ（0770）２３－０２９７㈹
ＦＡＸ（0770）２４－２８８２
E-mail y-f-labo@aqua.hokuriku.ne.jp

1F・天ぷらの店
きら天

2F・牛タンの店
きら亭

株式会社 萩 HAGI きら天・きら亭

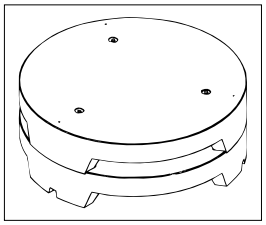
営業時間
AM11:00～PM 2:00
PM 5:30～PM10:00



〒986-0826
石巻市鋳銭場22-47 TEL･FAX(0225)92-8073

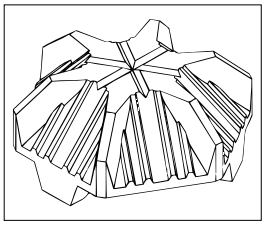
未来への海づくりを考える

円形セピア



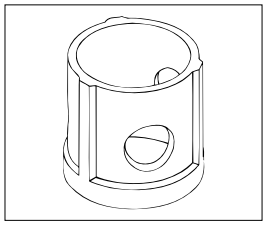
・ヤリイカ産卵場造成

マリノプランテーション



・多目的藻場造成

3.0円筒型魚礁



大型魚礁 人工礁 造成

共和コンクリート工業株式会社

代表取締役社長 本間丈士
水産開発部技術顧問 田中毅（昭44増殖）
水産営業部長（青森支店駐在） 足助光久（昭40増殖）
海洋事業本部副部長（札幌本社駐在） 薫田道雄（昭44増殖）

本社 〒060-0808 札幌市北区北８条西３丁目28番地（札幌エルプラザ11階）
TEL(011)736-0204 FAX(011)736-0205

住所変更届け用紙

勤務先・自宅等に変更が生じたときは必ずご連絡ください。
連絡は電話、FAX、E-mail、郵送のいずれも可です。
切り取ってご利用下さい。

卒業年次	昭 平　　年	（漁・遠・製・食・化・養・増・特専 海・シ・生・資）科卒	
フリガナ 氏　名		フリガナ 旧氏名	
現勤務先	勤務先及び部署 役職 〒　　T　　F 所在地		
現住所	〒　　T　　F 自宅住所		

送付先：

〒041-8611　函館市港町3丁目1番1号
北海道大学水産学部北水同窓会
電　　話　0138-42-3681
ＦＡＸ　0138-42-3681
Ｅメール　hokusui@hotweb.or.jp

払　込　取　扱　票

02 函　館

通常払込料金
加入者負担

口座番号　（右詰めにご記入ください）

0 2 6 2 0 ＝ 5 ＝ 5 8 1

金額　※　千 百 十 万 千 百 十 円

加入者名　北　水　同　窓　会

料金　特殊取扱

通信欄　※　本会々費は4,000円です。勤務先等お書き下さい。

昭・平　卒業　学科　年度分　受領書　要・不要

払込人住所氏名　（郵便番号　　）　※

（電話番号　－　－　）

受付局日附印

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

切り取らないで郵便局にお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

払込票兼受領証

口座番号　0 2 6 2 0 ＝ 5　通常払込料金加入者負担

右詰めにご記入ください　5 8 1

加入者名　北 水 同 窓 会

金額　※　千 百 十 万 千 百 十 円

払込人住所氏名　※

料金　（消費税込み）　円

受付局日附印

特殊取扱

吉原法律事務所

弁護士・海事補佐人　吉原 美智世

（昭和48年増殖学科卒業）

《業 務 内 容》

法律問題に関する紛争処理（交渉・訴訟・調停）・
企業法務・会社の再建・倒産処理・会社顧問・
交通・労災・医療事故・行政事件・刑事弁護・
相続・遺言・自己破産・個人再生
（法律相談30分5,000円）

☎　011−622−7963
ＦＡＸ　011−622−8414
札幌市中央区大通西20丁目2番20号　道新円山ビル8階
交通　地下鉄東西線西18丁目駅1番出口
E-mail　yosihara@sapporo-law.com